

- このスライドは、非営利かつ個人的な目的に限り閲覧することができます。

The following presentation slides are shared with symposium registrants exclusively for personal, non-commercial, educational purposes.

- このスライドの著作権は、講演の発表者本人に帰属します(図表等の引用箇所は除く)。如何なる国・地域においても、また紙媒体やインターネット・電子データなど形態に関わらず、スライドの全部または一部を無断で複製、転載、配布、送信、放送、貸与、翻訳、販売、変造、二次的著作物を作成すること等は、固く禁止します。

Copyright of these slides belongs to the presenter and/or the Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University (except figures, tables, etc., cited from other sources). Authorized recipients should refrain from reproducing, reprinting, distributing, transmitting, broadcasting, loaning, translating, selling, modifying, or creating derivatives of any slides, in any physical or electronic medium anywhere in the world.

2023年 福島県立医科大学『県民健康調査』国際シンポジウム
公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
国際シンポジウム事務局(広報・国際連携室)

✉ kenkani@fmu.ac.jp Tel: 024-581-5454(平日9～17時)

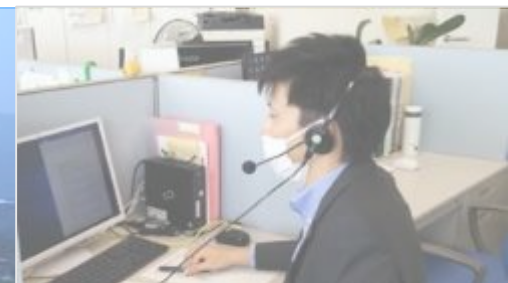
2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey

Secretariat of International Symposium

Office of Public Communications and International Cooperation, Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University

✉ kenkani@fmu.ac.jp, TEL: +81-24-581-5454 (Weekday, 9a.m. - 5 p.m. JST)

今年度報告された 福島県「県民健康調査」の成果概要



県民の健康を長期にわたり見守り、
将来にわたる健康増進につなげるために

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
神谷 研二

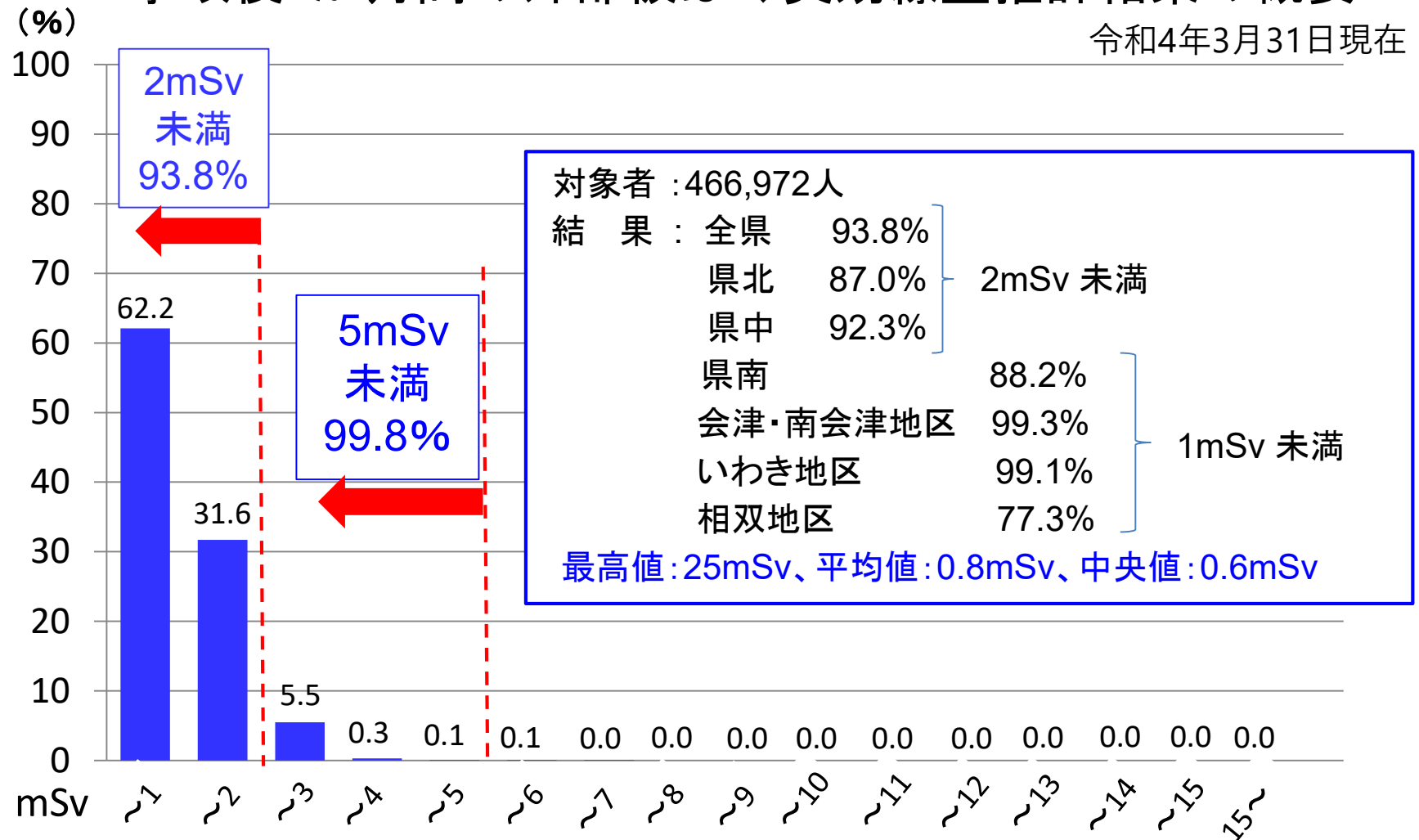
県民健康調査の概要

■調査の種類（事故後4ヶ月間の外部被ばく線量を推計する基本調査と健康状態を把握する詳細調査）

名称	対象	対象者数	調査・回答方法
基本調査	震災時の福島県居住・滞在者	約 206万人	 問診票記入 →郵送
詳細調査	先行検査: 震災時おおむね18歳以下の全県民 本格検査: 上記に加え、平成23年4月2日～ 平成24年4月1日生まれの方	約 36.8万人 約 38.1万人	 学校/医療機関 /会場で受診
甲状腺検査			
健康診査	避難区域等の13市町村住民 （上記以外は県事業で実施）	約 21万人	 医療機関/市町 村の健診会場 等で受診
こころの健康度・ 生活習慣に関する調査	避難区域等の13市町村住民	約 21万人	 調査表記入 →郵送 またはWeb回答
妊産婦に関する調査	本調査: 県内で母子手帳を交付された方、 県内で分娩した方 フォローアップ調査: 本調査に回答された方	各年度 1.2～1.6万人 各年度 5～7千人	 調査表記入 →郵送 またはWeb回答

事故後4か月間の外部被ばく実効線量推計結果の概要

令和4年3月31日現在



検討委員会: これまでに得られている科学的知見に照らして、統計的有意差をもって確認できるほどの健康影響が認められるレベルではないとの見解

甲状腺検査【方法】

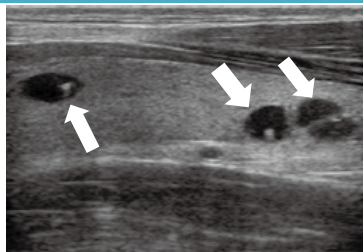
先行検査 : 約 368,000人
災害時18歳以下の全住民

本格検査 : 約 381,000
上記に加え、平成23年4月2日～平成24年4月1日生れの住民

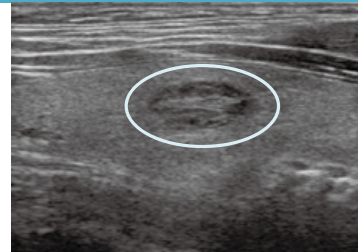
検査の流れ

一次検査(超音波検査)

のう胞



結節



超音波画像診断

判定：A1、A2

■のう胞 20.0 mm 以下 ■結節 5.0 mm 以下

判定：B、C

■のう胞 20.1 mm 以上 ■結節 5.1 mm 以上

二次検査

詳細な超音波検査、血液検査、尿検査、
穿刺吸引細胞診(必要に応じて)

次回検査

診療または治療(手術等)

甲状腺検査【情報提供】

○ 出張説明会

【対象者】

保護者
教職員
市町村職員
地域住民 など



【内容】

甲状腺検査の内容、最新の検査結果、甲状腺と甲状腺がんに関する医学的特徴などを、医師が説明

○ 動画

甲状腺検査の メリット・デメリット

【内容】

超音波診断装置（エコー）を用いた甲状腺検査のメリットとデメリットを詳しく説明



令和2年4月1日より配信

○ 出前授業

【対象者】

小学5年生から高校生

【内容】

- 学校からの申し込みにより、授業時間等に実施
- 専用テキスト等を使い、医師が甲状腺検査について分かりやすく説明
- 臨床検査技師による超音波検査機器のデモンストレーション



小学生用テキスト

○ 甲状腺通信

【内容】

- 甲状腺検査の最新情報、
- 検査に関する疑問と解説
- 検査結果などを伝える定期刊行物



令和5（2023）年度から6回目の検査を実施します

受診対象年度となる対象者が10月～令和5年3月まで、検査の検査の案内（甲状腺検査の案内）を各自治体から、次のとおり検査書の交付年次によって、検査の案内を交付する年次が異なります。

検査年度	検査対象者	検査実施期間	検査実施回数
令和5（2023）年度	令和4（2022）年度から検査を実施した自治体	令和5（2023）年度	6回
令和4（2022）年度	令和3（2021）年度から検査を実施した自治体	令和4（2022）年度	5回
令和3（2021）年度	令和2（2020）年度から検査を実施した自治体	令和3（2021）年度	4回
令和2（2020）年度	令和1（2019）年度から検査を実施した自治体	令和2（2020）年度	3回
令和1（2019）年度	令和0（2018）年度から検査を実施した自治体	令和1（2019）年度	2回
令和0（2018）年度	平成29（2017）年度から検査を実施した自治体	令和0（2018）年度	1回

平成24年度から 19回発行

甲状腺検査【メリット・デメリット】

メリット

- 福島県における放射線の影響に関する情報
- 異常所見がなかった場合の安心
- 早期診断による再発や治療合併症の予防

デメリット

- 甲状腺検査の結果に対する不安
- 甲状腺がんの治療や経過観察中の負担
- 超低リスク甲状腺がんの過剰診断



甲状腺検査への理解促進のための取組



(一次検査会場での検査説明)



(「甲状腺検査」出前授業)

小学生用テキスト 中高生用テキスト



(出前授業の教材)

甲状腺検査【検査のメリット・デメリットについての周知】

○ 検査のお知らせ文

対象者一人一人にお知らせを郵送し、検査の目的やメリット・デメリットを説明



○ 冊子の配布

本格検査(検査5回目)から冊子を配付。
小学生用と中学生用の説明も掲載



○ 動画

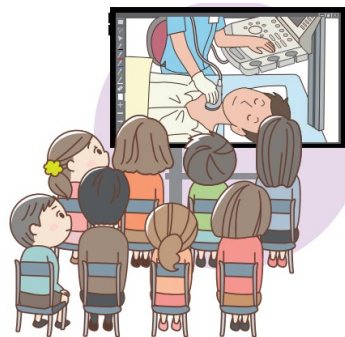
甲状腺検査の一般会場において、「検査のメリット・デメリット」の動画を放映し受診者へ周知



令和2年4月1日より配信

○ テレビ番組

県政広報テレビ番組で、検査のメリット・デメリットを理解した上で判断して欲しいことを周知



○ ホームページ

甲状腺検査の情報が探しやすいようHPの構成を見直し、内容を充実



<https://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/merit-demerit.html>

○ イベントでの周知

令和4年11月開催のいきいき健康づくりフォーラムでパネル展示



甲状腺検査【制度】

スケジュール及び対象者

	事項	期間	一次検査実施場所	対象者
検査 1回目	先行検査 (甲状腺の状態を 把握するため実施)	平成23年10月 ～ 平成26年3月	本学、各学校、 公共施設、 県外の検査実施機関等	震災時、福島県内にお住まいの 概ね18歳以下の全県民 (約36.8万人)
検査 2回目	本格検査 (長期にわたり見守り) 	平成26年4月 ～ 平成28年3月	各学校や公共施設、 県内外の検査実施機関等	上記「先行検査対象者」に加え、 平成23年4月2日～ 平成24年4月1日 までに生まれた方を追加 (約38.1万人)
検査 3回目		平成28年5月 ～ 平成30年3月		
検査 4回目		平成30年4月 ～ 令和2年3月		
検査 5回目		令和2年4月 ～ 令和5年3月		
25歳時 節目検査		平成29年5月 ～	公共施設や県内外の検査 実施機関等	20歳を超えるまでは2年ごと、 それ以降は25歳、30歳等の 5年ごとの節目に検査を実施

甲状腺検査【結果】

令和4年6月30日現在

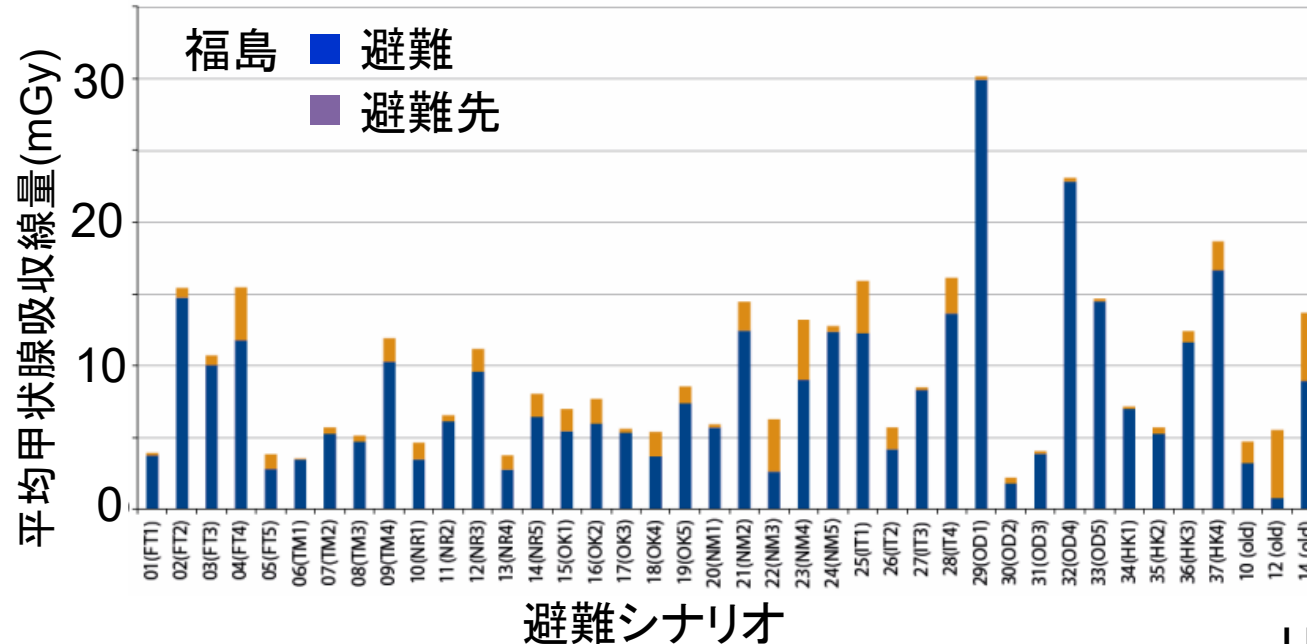
		先行検査 検査 1回目 ※1	本格検査 検査 2回目 ※2	本格検査 検査 3回目※2	本格検査 検査 4回目	本格検査 検査 5回目	25歳時の 節目の 検査 ※3
検査実施年度		2011- 2013	2014- 2015	2016- 2017	2018- 2019	2020- 2022	2017-
対象者数		367,637	381,237	336,667	294,228	252,908	108,713
一次検査受診率		81.7%	71.0%	64.7%	62.3%	31.7%	9.1%
二次検査対象者数		2,293	2,230	1,502	1,394	939	430
二次検査受診率		92.9%	84.2%	73.5%	74.3%	62.1%	82.1%
悪性・悪性疑い(細胞診)		116	71	31	39	23	16
手術実施者数		102	56	29	34	7	10
病理 診断	乳頭がん	100	55	29	34	7	9
	低分化がん	1					
	その他の 甲状腺がん		1				1
	良性結節	1					

※1 平成30年3月31日現在 ※2 令和3年3月31日現在 ※3 令和4年3月31日現在

国連科学委員会 (UNSCEAR) 報告書

：チヨルノービリ（チェルノブイリ）と福島原発事故避難集団の被ばく線量

各避難シナリオについての幼児の事故直後1年間における平均甲状腺吸収線量



UNSCEAR 2020/2021年
報告書 pp.150

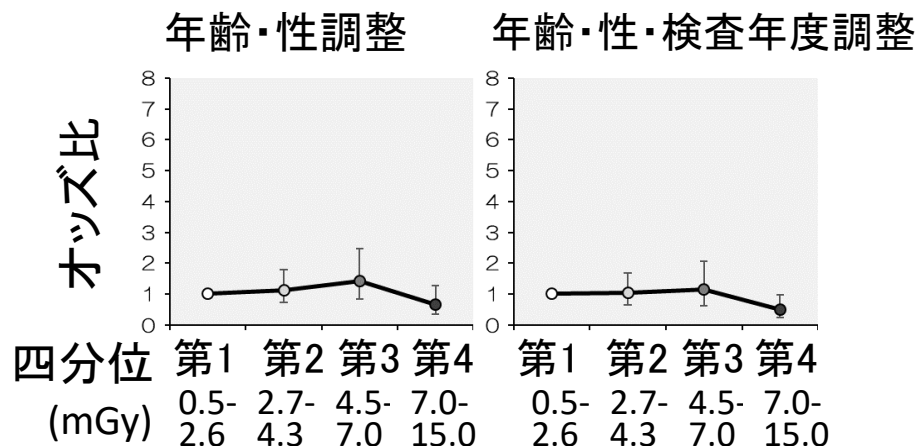
被ばく後1年間の
避難した幼児の
甲状腺の平均吸収線量
約2mGyから約30mGy

UNSCEAR 2008年報告書

チヨルノービリ 事故	人数 (千人)	平均実効線量 (mSv)		平均甲状腺 線量 (mGy)
		外部	内部	
ベラルーシ	25	30	6	1,100
ロシア	0.19	25	10	440
ウクライナ	90	20	10	330

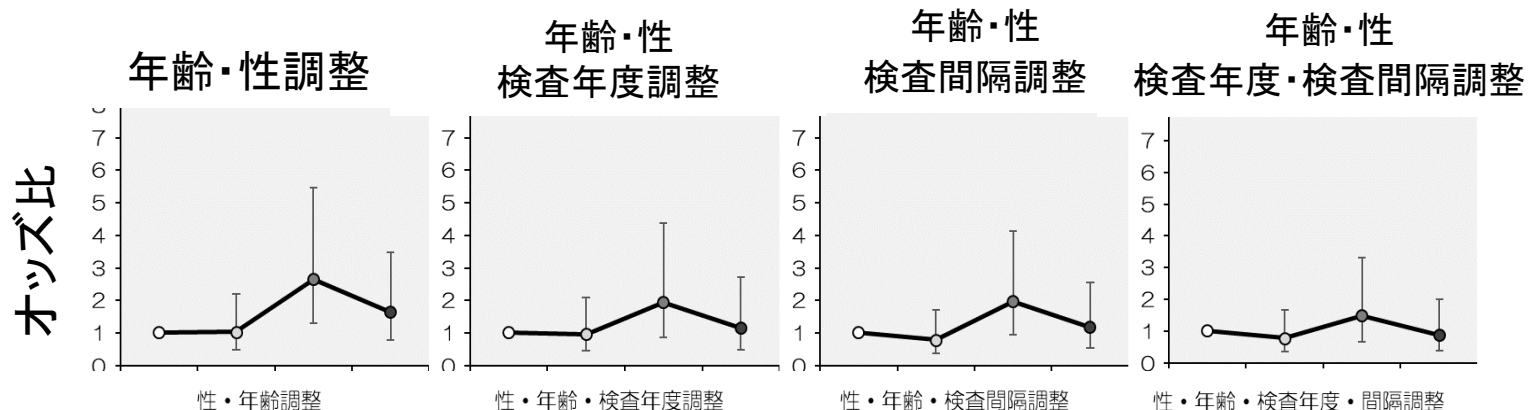
国連科学委員会のUNSCEAR2020推定甲状腺吸収線量により分類した全対象者における甲状腺がん/悪性疑い発見の調整したオッズ比(95%信頼区間)～横断調査～

検査1回目

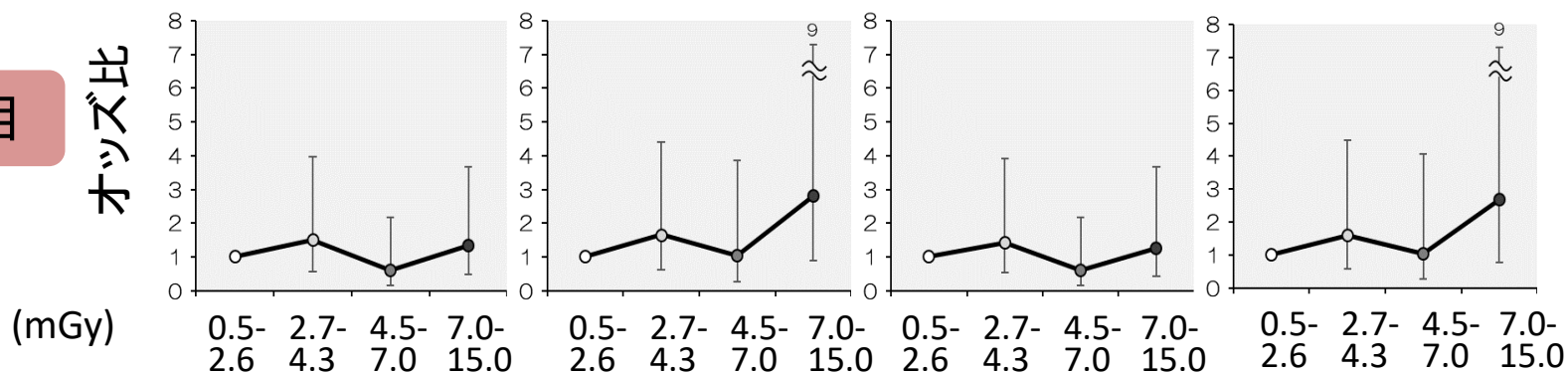


第18回「県民健康調査」検討委員会
甲状腺検査評価部会
(令和4年1月18日)

検査2回目

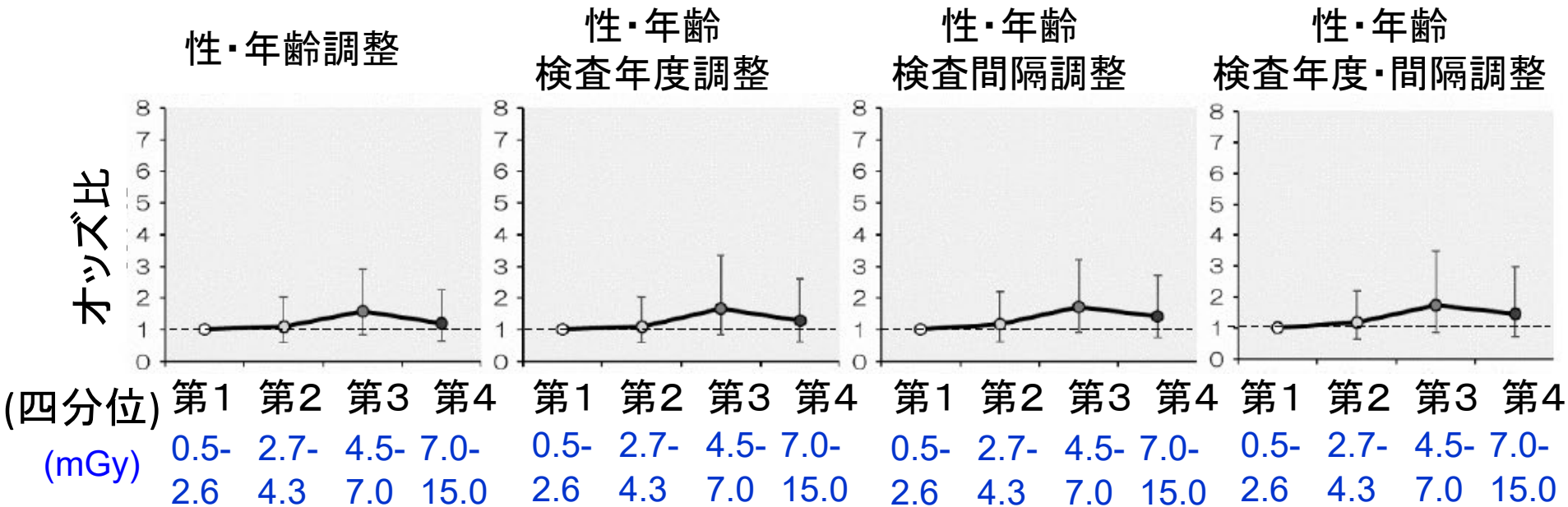


検査3回目



UNSCEAR 2020 推定甲状腺吸収線量により分類した全対象者における本格検査
(検査2/3回目)での甲状腺腫瘍の悪性ないし悪性疑い発見のオッズ比(95%C.I.)

～縦断調査～



	先行検査 検査1回目	本格検査 検査2回目	本格検査 検査3回目
検査実施年度 (事故後の期間)	2011-2013 (3年間)	2014-2015 (4-5年間)	2016-2017 (6-7年間)
悪性・悪性疑い(細胞診)	116	71	31

被ばく線量と悪性/悪性疑いの甲状腺腫瘍の発生との関連の検討

被ばく線量

県民健康調査による外部被ばく線量
↓
UNSCEARの地域別甲状腺吸収線量
↓
外部被ばく線量と内部被ばく線量
を合算した個人の甲状腺等価線量

対象者

甲状腺検査受診者
↓
甲状腺検査受診者
+
がん登録の登録者

解析法

地域相関研究
↓
線量に基づく横断調査
↓
線量に基づく縦断調査
↓
縦断調査
(コホート内症例対照研究)

マッチング モデル1

症例群131人:対照群1310人

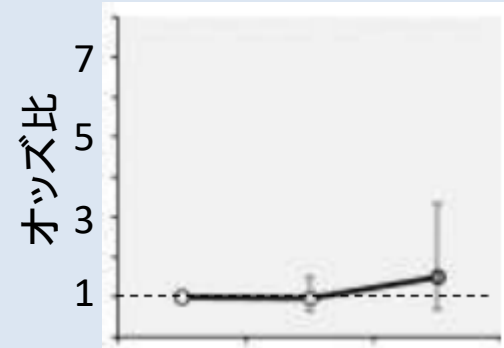
マッチング項目

* 性、年齢

* 発見時/診断時受信有無

コホート内症例対照研究

第45回福島県「県民健康調査」検討委員会



マッチング モデル2

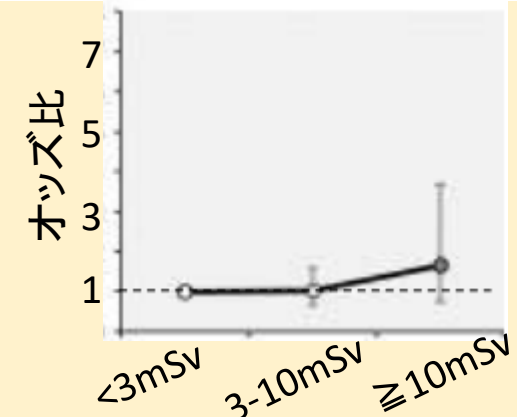
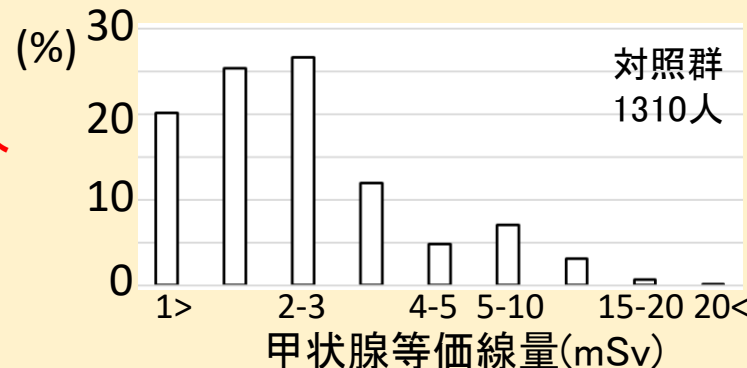
症例群131人:対照群1310人

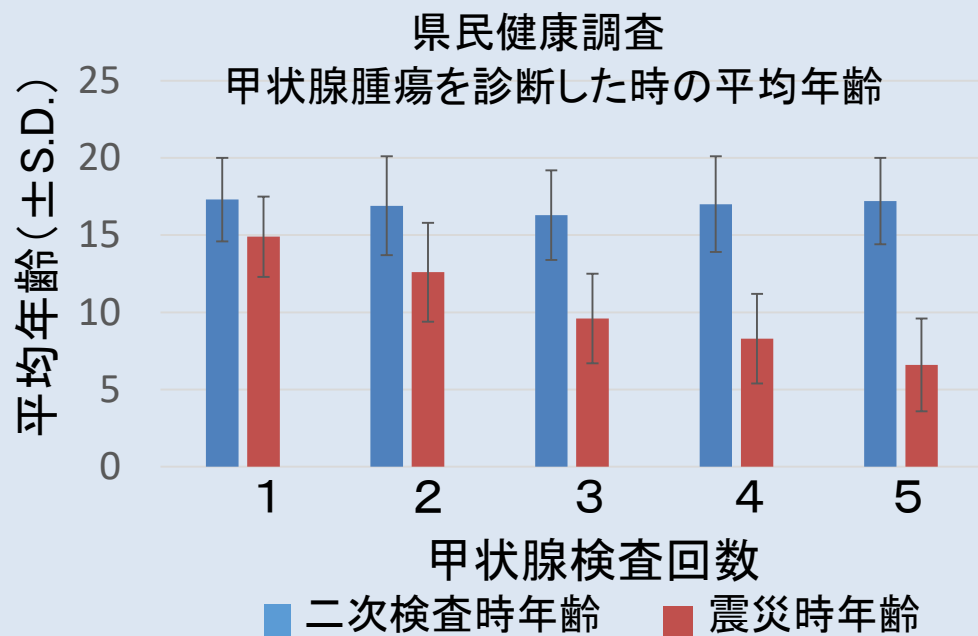
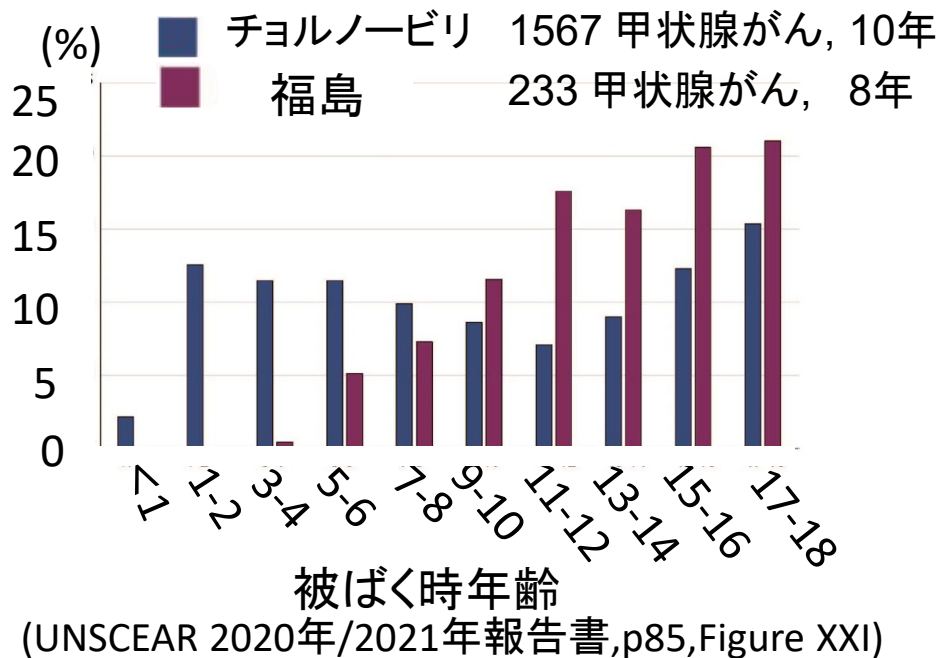
マッチング項目

マッチングモデル1

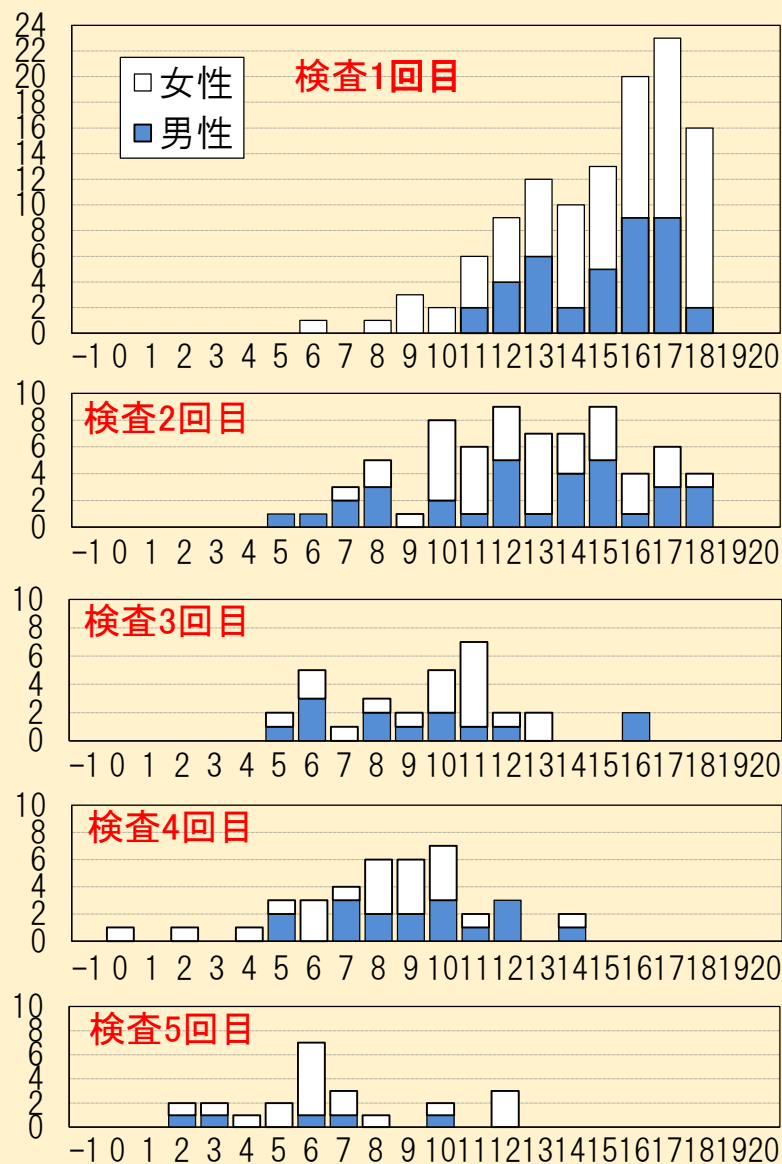
+

* 受診パターン





福島の甲状腺検査で発見された 甲状腺腫瘍の震災時の年齢分布



甲状腺検査 【検査結果に関する検討委員会等の見解】

検査1回目 先行検査（検査1回目）で見つかった甲状腺がんは、
「総合的に判断して、放射線の影響とは考えにくい」との見解

この評価の主な理由

「福島県県民健康調査における中間とりまとめ」

- ・被ばく線量がチヨルノービリ事故と比べて総じて小さいこと
- ・被ばくからがん発見までの期間がおおむね1年から4年と短いこと
- ・事故当時5歳以下からの発見はないこと
- ・地域別の発見率に大きな差がないこと

検査2回目 「現時点において、本格検査1回目（検査2回目）に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの間に関連は認められない」との
部会の評価を了承

「第36回福島県『県民健康調査』検討委員会」

この評価の主な理由

- ・国連科学委員会（UNSCEAR）が推計した甲状腺吸収線量と甲状腺がん発見率との解析で、線量の増加に応じて発見率が上昇する関係（線量・効果関係）が認められない。
- ・精密検査が必要となるB判定の割合や悪性ないし悪性疑いの発見率は、事故当時等の年齢が高い年齢層ほど高く、チヨルノービリ事故後に低い年齢層に多く見られた年齢分布と異なる。

検査3回目 1）甲状腺検査対象者全体のUNSCEAR推定線量の分布に基づいた四分位に分類した解析（横断調査）では、有意な関連は観察されず、量反応関係も認められず。2）検査2,3回目の縦断調査での同様な解析においても、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。

「第18回甲状腺検査評価部会」の評価を第44回検討委員会に報告

甲状腺検査【支援】

○ 一次検査サポート

結果説明ブース

- 一般会場（公共施設等）に設置
- 医師が超音波画像を示しながら、一次検査結果の暫定的説明

平成27年度から
33,451 人に説明

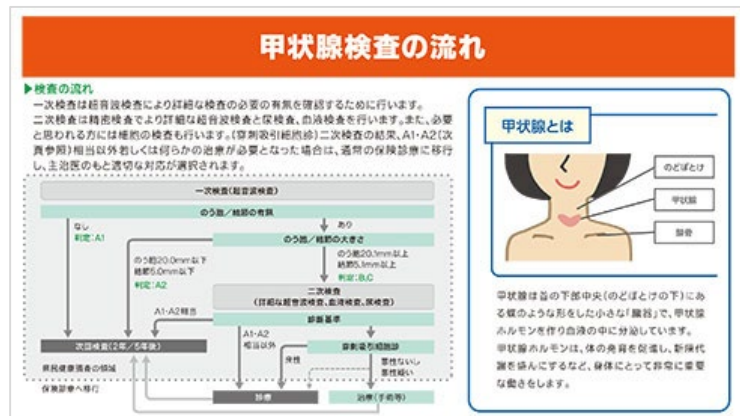
（人数は令和4年3月末現在）



ブース内（イメージ）

○ リーフレット

- 検査会場で配布
- 結節とのおのう胞、判定基準、二次検査等の説明

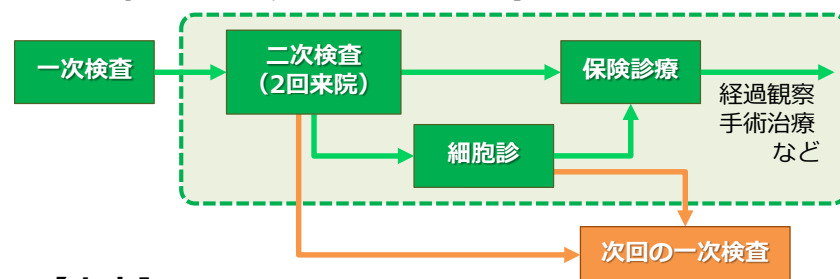


○ 二次検査サポート

甲状腺サポートチーム

【構成】

看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、
医療ソーシャルワーカー 等



【内容】

二次検査対象者とその家族への心理・社会的支援

平成25年度から **2,039** 人（延べ **4,062** 回）を支援

（支援人数・回数は令和4年3月末現在）

○ 医学専用ダイヤル

【利用対象者】

甲状腺検査対象者と
その家族

平成28年度から
444 件入電

（入電件数は令和4年12月末現在）

【内容】

- 検査結果や甲状腺の病気などに関する医学的相談
- 医師が検査結果や画像を確認しながら回答

甲状腺検査【支援】 甲状腺サポートチーム

まさか…
甲状腺
がん？

検査は
受けた方が
いいの？

二次検査＝精密検査

自分だけ
二次検査に
呼ばれた！

針を刺す
検査？
怖い！

受診者

放射線の
影響って
どうなん
だろう？

避難して
いたら
良かった
かなあ

家族

甲状腺検査【支援】 甲状腺サポートチームの役割

検査前



丁寧にお話を伺い
緊張をほぐす

検査中



超音波検査など
医師の診察や検査に
同席する

検査後



わからないことがないか確認し
説明を補足したり、
必要な情報を提供する

サポートチームによる支援

不安への対応

温かな態度
見通しを伝える



質問者への対応

質問を
持ち帰らせない



情報提供

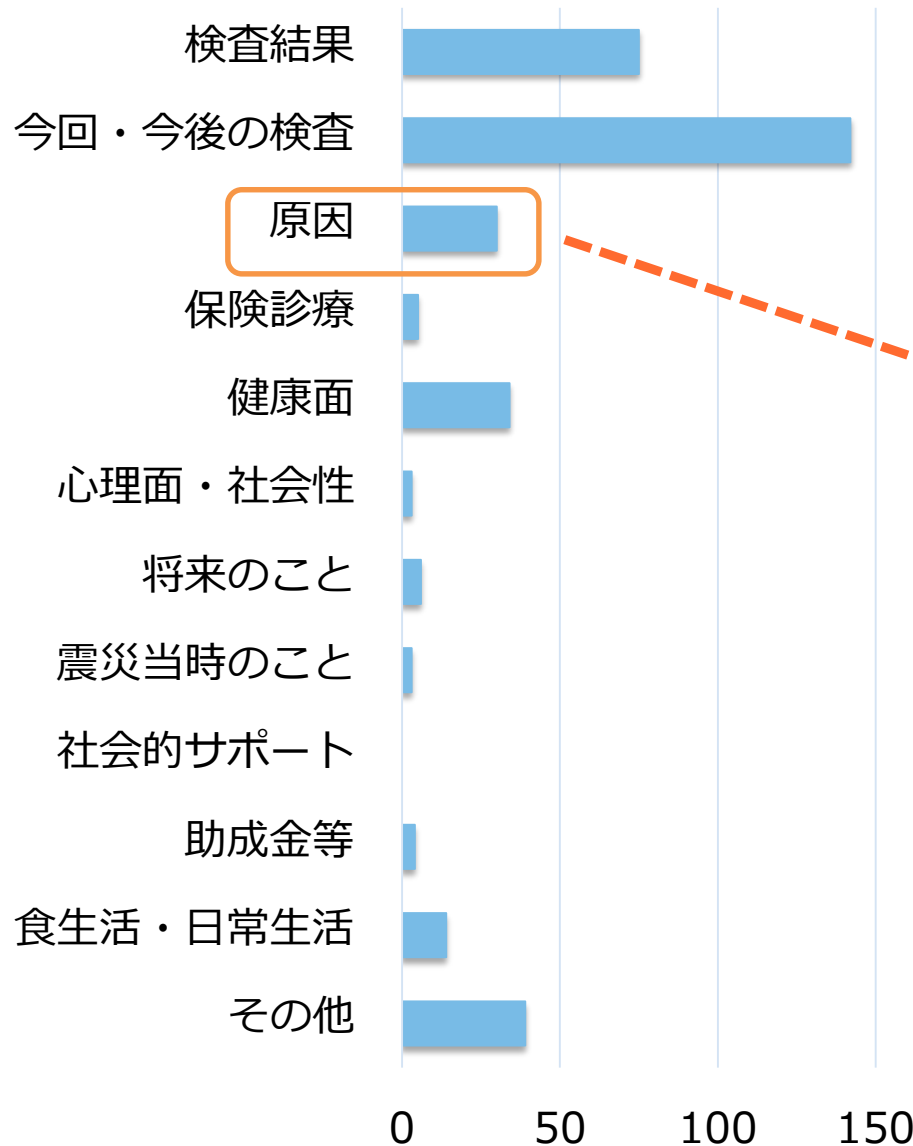
必要な
情報を提供する

意思決定の支援

自主性・
自立性の支援

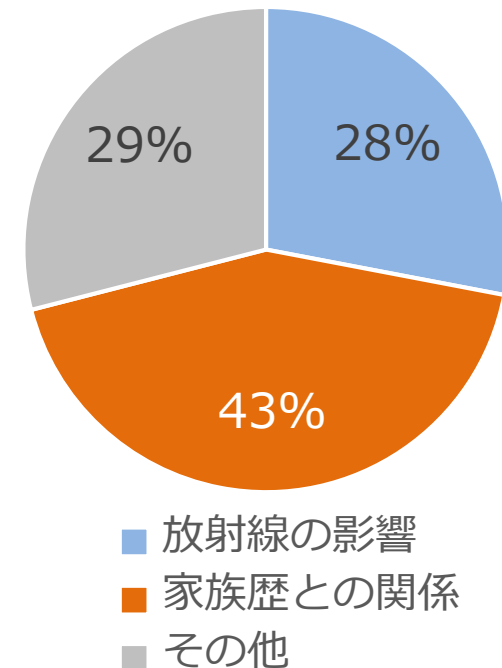


【二次検査初回の相談内容】



甲状腺サポート記録**233回**の分析
 <対象> 本格検査（検査4回目）の
 甲状腺二次検査の受診者と家族
 <期間> 平成30年9月～平成31年3月

検査結果の原因に関する相談





甲状腺検査【支援】

二次検査におけるサポートの効果

二次検査初回の支援内容

0 100 200 300

対象者の思いの傾聴



家族の思いの傾聴



説明内容の確認



質問の確認・対応



医師への再説明



情報提供



日常生活等の支援



健康の自己管理



次回検査の意思決定支援



細胞診の意思決定支援



その他の支援



二次検査 2 回目の支援内容

0 50 100 150 200 250

対象者の思いの傾聴



家族の思いの傾聴



説明内容の確認



質問の確認・対応



医師への再説明



情報提供



日常生活等の支援



健康の自己管理



次回検査の意思決定支援



細胞診の意思決定支援



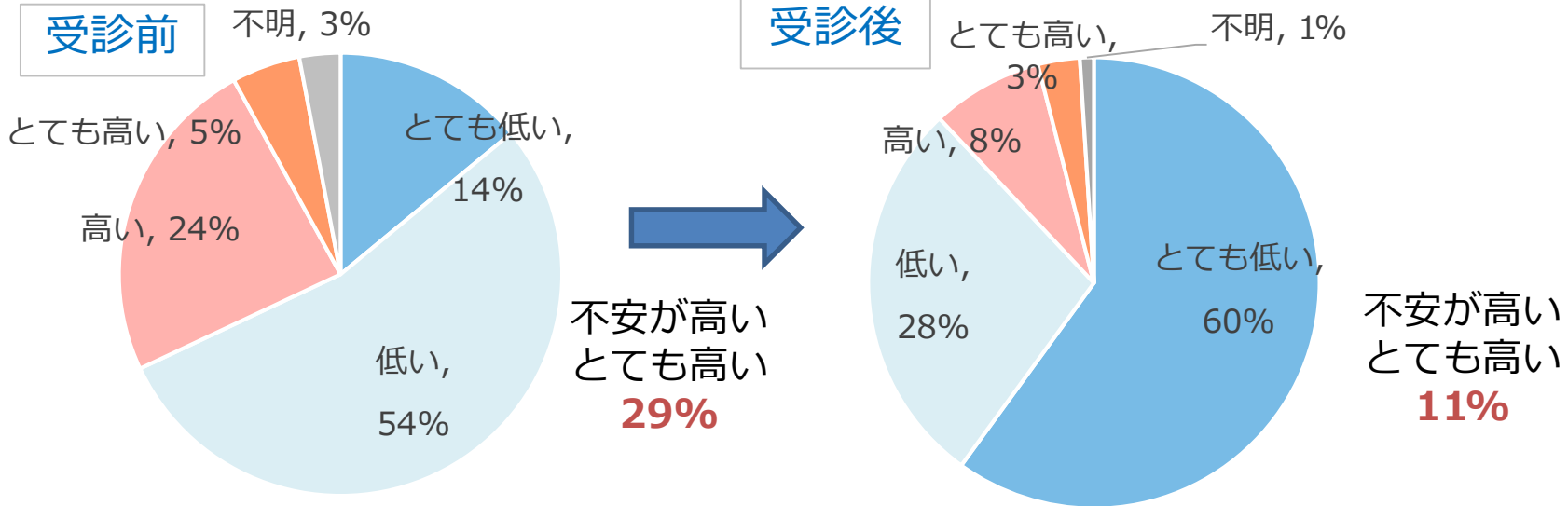
その他の支援



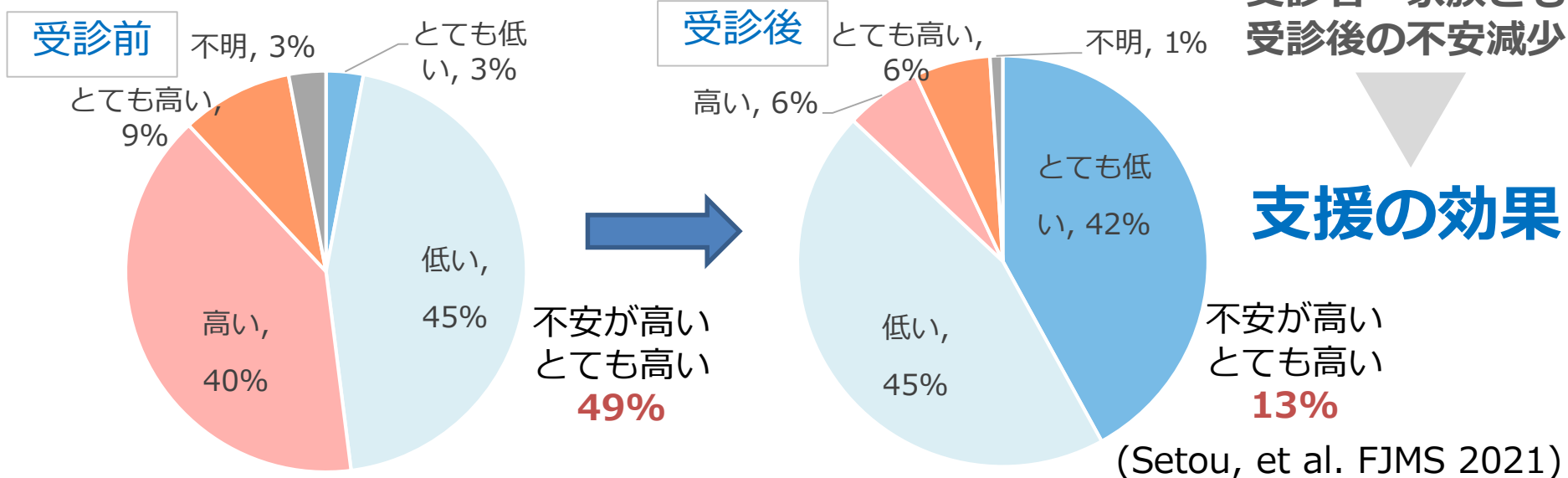
(Setou, et al. FJMS 2021)

甲状腺検査【支援】 二次検査におけるサポートの効果

二次検査初回の受診者の不安の程度



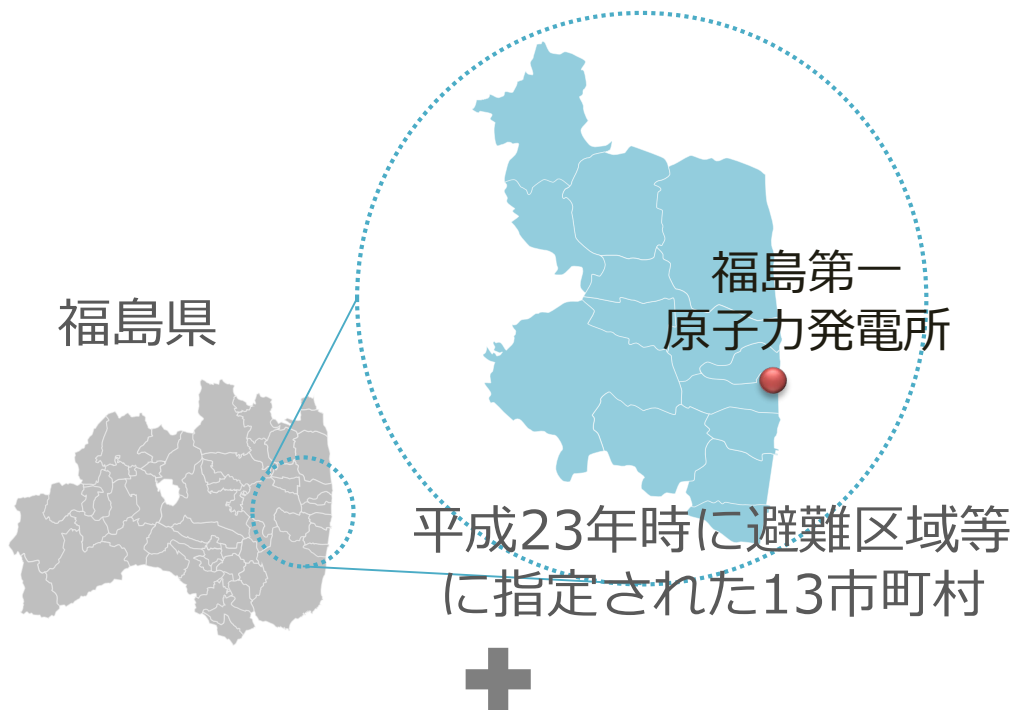
二次検査初回の家族の不安の程度



健康診査【概要】

対象者： 住民 約21万人

平成23年時指定の避難区域等の住民



基本調査の結果必要と認められた方

年齢区分と検査項目

年齢区分	検査項目
0-6歳 (就学前乳幼児)	身長、体重、 [希望がある場合のみ] 血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画)
7-15歳 (小学校1年生 ~中学校3年生)	身長、体重、血圧、血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画) [希望による追加項目] 血液生化学(AST、ALT、 γ -GT、TG、HDL-C、LDL-C、HbA1c、血糖、血清クレアチニン、尿酸)
16歳以上	身長、体重、腹囲(又はBMI)、血圧、 <u>血算(赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板数、白血球数、白血球分画)</u> 、 <u>尿検査(尿蛋白、尿糖、尿潜血)</u> 、血液生化学(AST、ALT、 γ -GT、TG、HDL-C、LDL-C、HbA1c、血糖、 <u>血清クレアチニン、eGFR、尿酸</u>) ※下線部は、通常、特定健康診査では検査しない追加項目

健康診査の検査項目で放射線影響を示す所見は認められなかった

東日本大震災後の健康状態（15歳以下）

- 肥満は改善したが、脂質異常の改善は遅れている

避難等による生活習慣の変化等がリスク因子と考えられる疾患（16歳以上）

- 肥満
- 高血圧症
- 脂質異常
- 糖尿病
- 腎機能障害
- 高尿酸血症
- 肝機能障害
- 多血症

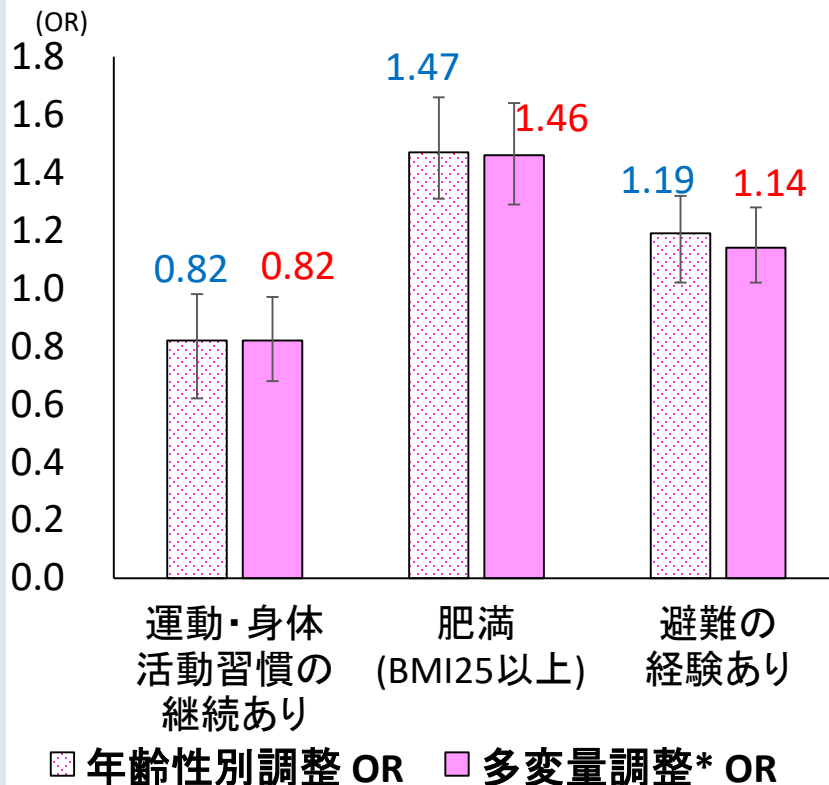
循環器病危険因子の増加がある

東日本大震災後増加したがその後改善した疾患等（16歳以上）

- 血圧値、LDLコレステロール値：治療率の向上
- 肝胆道系酵素異常（肝機能障害）：日常の運動と朝食摂取

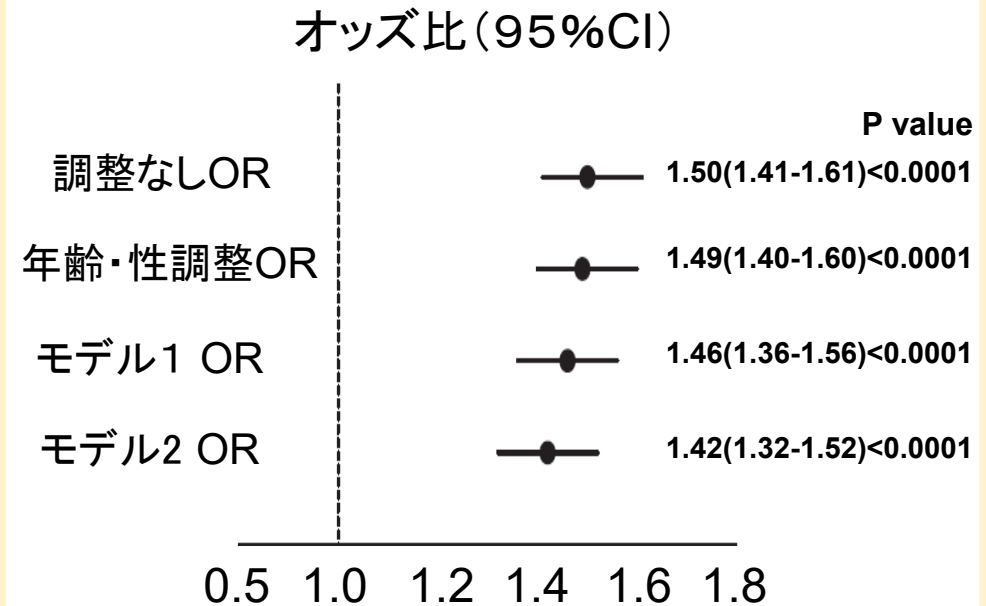
県民健康調査「健康診査」関連論文の紹介(避難生活の影響)

脂質異常症の新規発症と生活習慣 および避難との関連(95%信頼区間)



Fumikazu Hayashi et al.
Journal of Radiation Research,
Vol. 62, No. S1, 2021, pp. i129-i139

避難者の高LDLコレステロール血症新規発症 のオッズ比(OR)および95%信頼区間(CI)



Hiroaki Satoh et al.
J Epidemiol 2022;32(6):277-282

健康診査【支援】

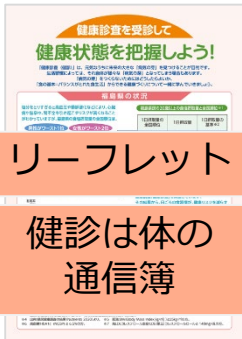
放射線医学県民健康管理センター

避難区域等13市町村



個人結果通知

氏名	性別	年齢	身長	体重	血圧	血糖	脂質	肝臓	腎臓	心臓	肺	胃腸	泌尿器	婦人科	小児科	その他
山田 太郎	男	45	175	75	110/70	100	LDL 150	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常
山田 花子	女	42	160	60	105/65	95	LDL 140	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常	正常



分析結果報告書



市町村への
説明・提案

- 市町村ごとの調査結果
- 市町村のニーズに応じた健康増進策 等



13市町村連絡会での報告

平成25年度から令和3年度まで
322回実施

健康状態の
理解促進・啓発



運動



睡眠

食事

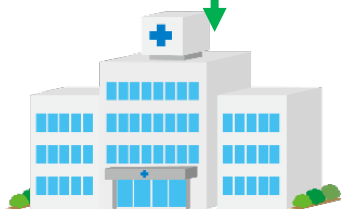


リーフレットの
活用・実践

住民



受診



参加

啓発活動・保健
指導等への活用

健診結果報告会等での
「健康セミナー」



(健康講話)

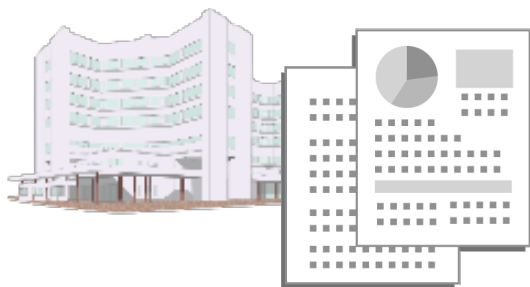


(血糖値測定)

平成28年度から令和3年度まで
152回実施

1 3 市町村連絡会

放射線医学県民健康管理センター



- 市町村ごとの調査結果
- 市町村のニーズに応じた健康増進策 等

市町村への
説明・提案

質問・要望

避難区域等13市町村



(保健師や保健福祉担当職員)

田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、
富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、
葛尾村、飯舘村、伊達市（一部が特定避難勧奨地点）

平成25年度から令和3年度まで
322回実施



(南相馬市連絡会)



(保健師の派遣)

市町村からのコメント

脂質異常や高血圧など健診結果について住民に分
かりやすく説明できるよう、協力してもらいたい

町の健診のアンケート問診に協力してほしい

避難先で子育て中の母親のうつが心配。子が成長
してもうつの率が高い。原因を調べてほしい

戸別訪問で健康体操の指導をしてほしい

ここから調査の結果について、13市町村全体の結
果と比較したい

フォローアップ

健診の結果説明を支援

健診スタッフを派遣

妊産婦調査へ情報提供

理学療法士(教員)を派遣

ここから調査室で次回
報告様式を検討

健康診査【支援】

健康セミナーの実施



健康講話



血糖値測定

- 医師等の講話で、対象市町村の分析結果を住民の方へ直接報告
- 専門職による個別相談、血压・測定

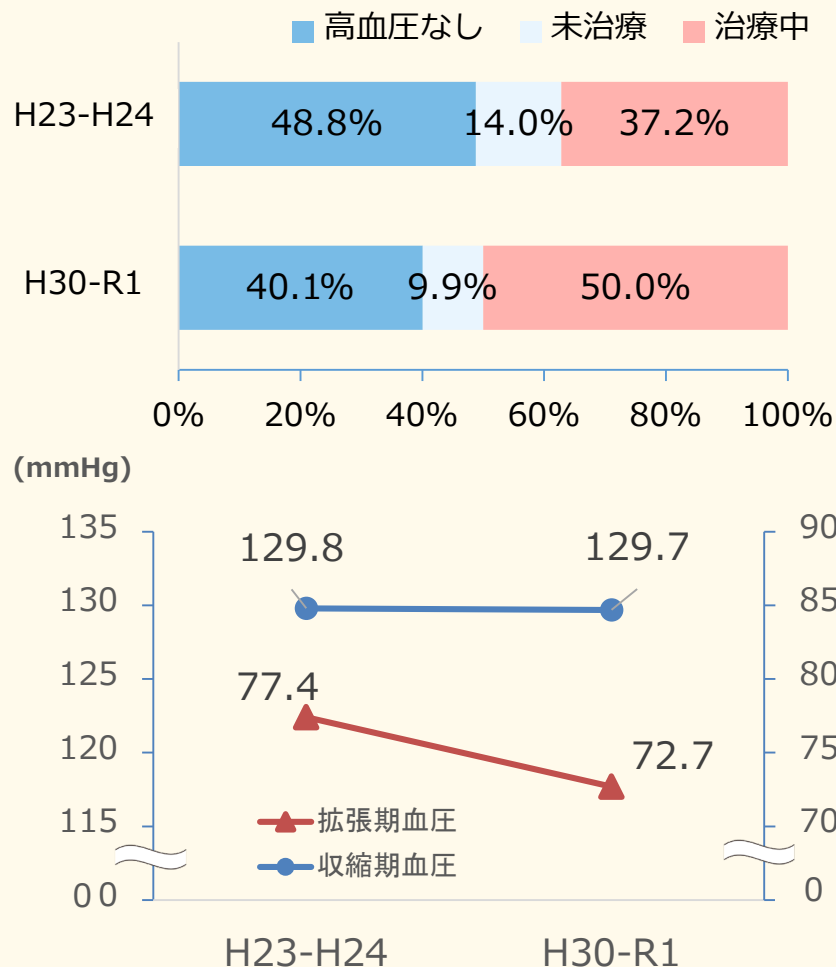
健診結果の積極的な地域への
フィードバック



健診の継続と治療率向上により
血压値が改善

<フィードバックの一例>

震災後9年間の血压値の推移（田村市）



⇒高血圧治療中の割合が増加し、
拡張期血圧の平均値は低下

健康診査【支援】 健康セミナーの開催状況

【令和2年度】 17回実施

市町村名	イベント名	回数	実施内容
檜葉町	総合健診	8回	専門職による個別相談 パネル展示
	個別健康相談会	7回	専門職による個別相談 パネル展示
広野町	健診結果説明会	1回	専門職による個別相談 血圧測定
田村市	健康づくり市民講座	1回	医師の講話 専門職による個別相談 血圧測定



(医師の講話)

【令和3年度】 18回実施

市町村名	イベント名	回数	実施内容
檜葉町	個別健康相談会	2回	専門職による個別相談 パネル展示 チラシ配布
	総合健診	7回	パネル展示
葛尾村	健診結果説明会	7回	専門職による個別相談 パネル展示 チラシ配布
田村市	健康づくり市民講座	2回	医師の講話 専門職による個別相談 血糖測定



(専門職による個別相談)



(パネル展示)

こころの健康度・生活習慣に関する調査【概要】

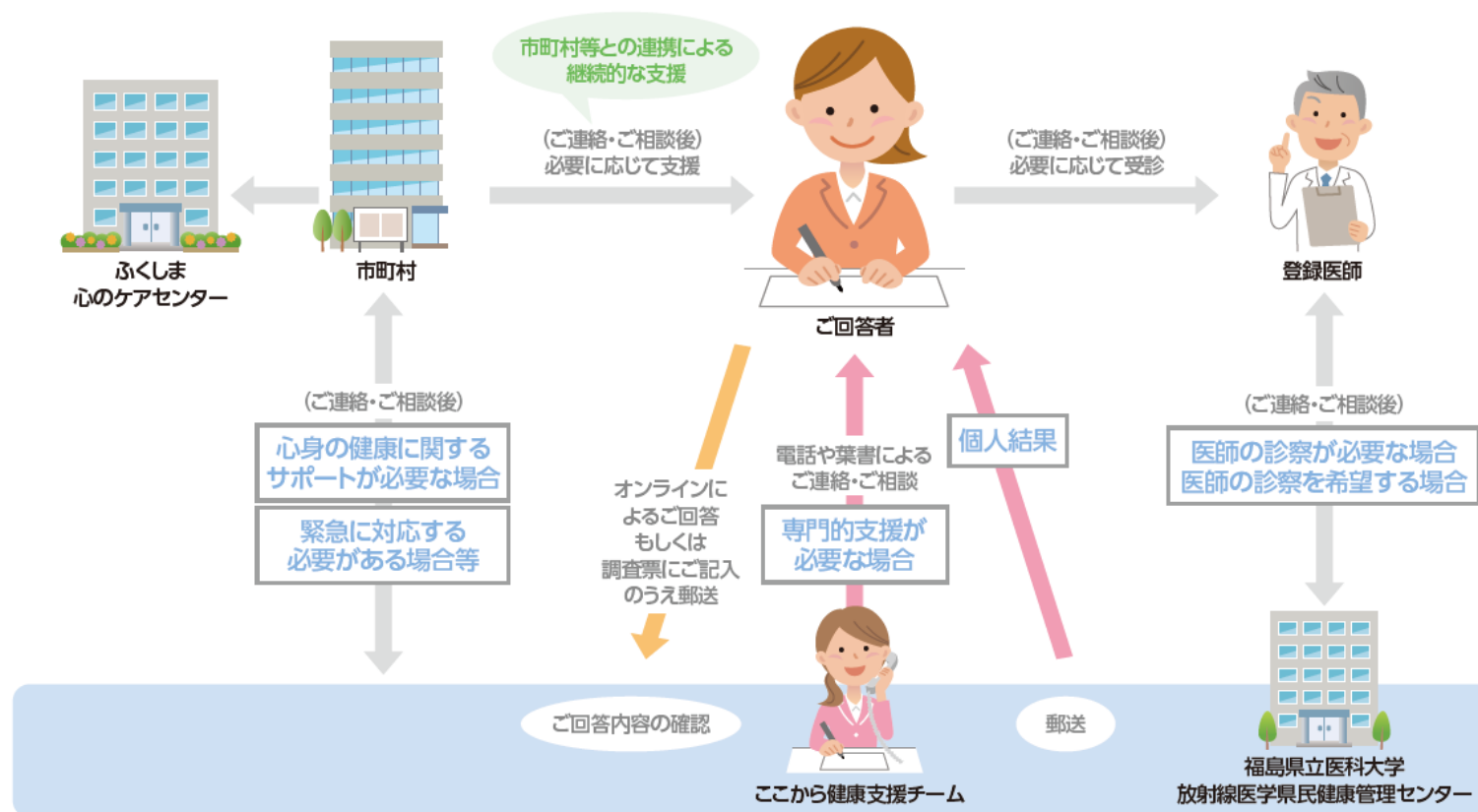
対象者（令和2年度調査）

199,461人 平成23年時指定の避難区域等の住民など

田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、
大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村の全域および伊達市の一部
(特定避難勧奨地点の属する地域)

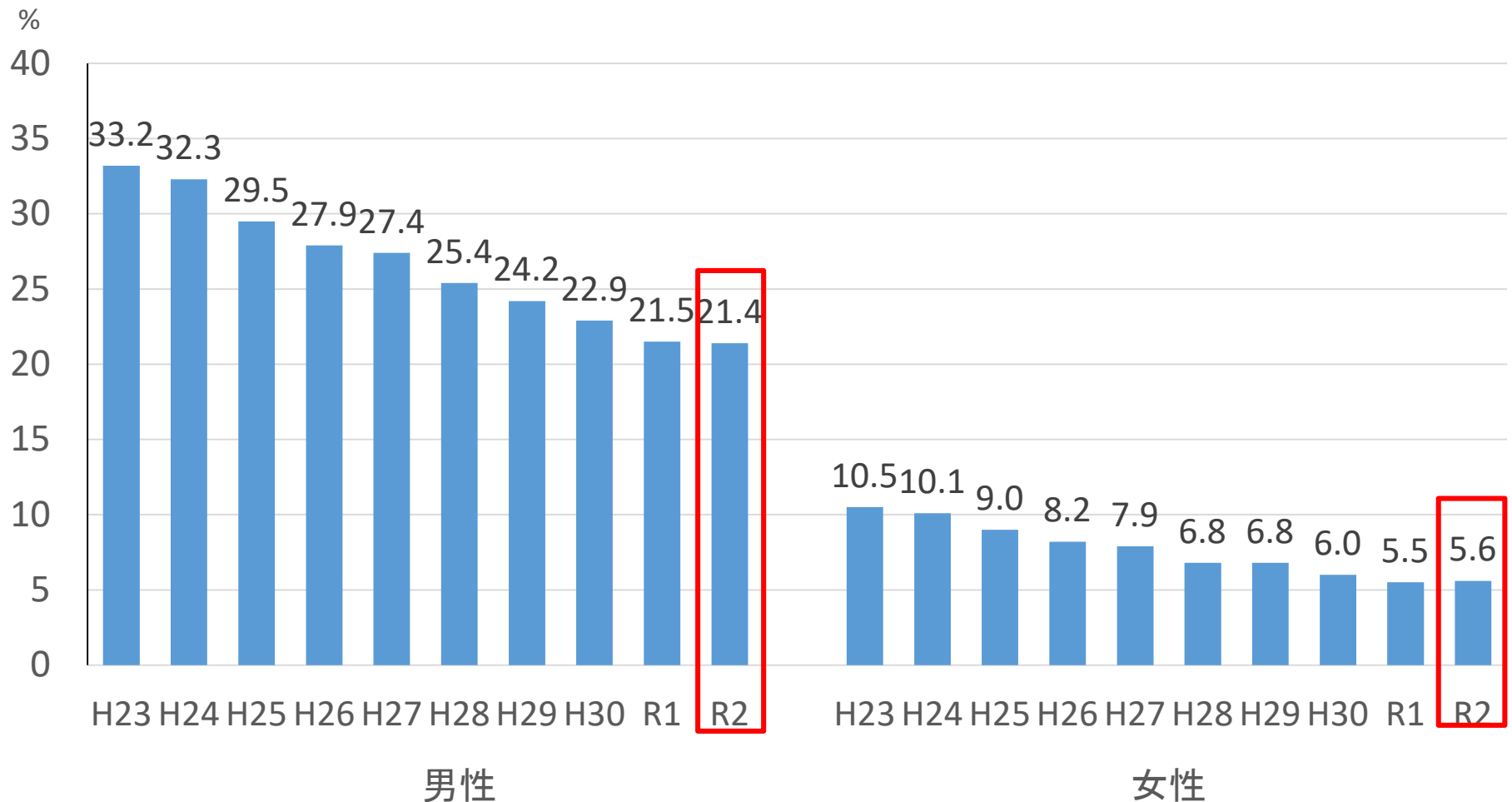
年齢区分：0-3歳・4-6歳・小学生(7-12歳)・中学生(13-15歳)・一般(16歳以上)

～調査票ご提出から支援までの流れ～ 関係機関や医師が連携してケアをしています



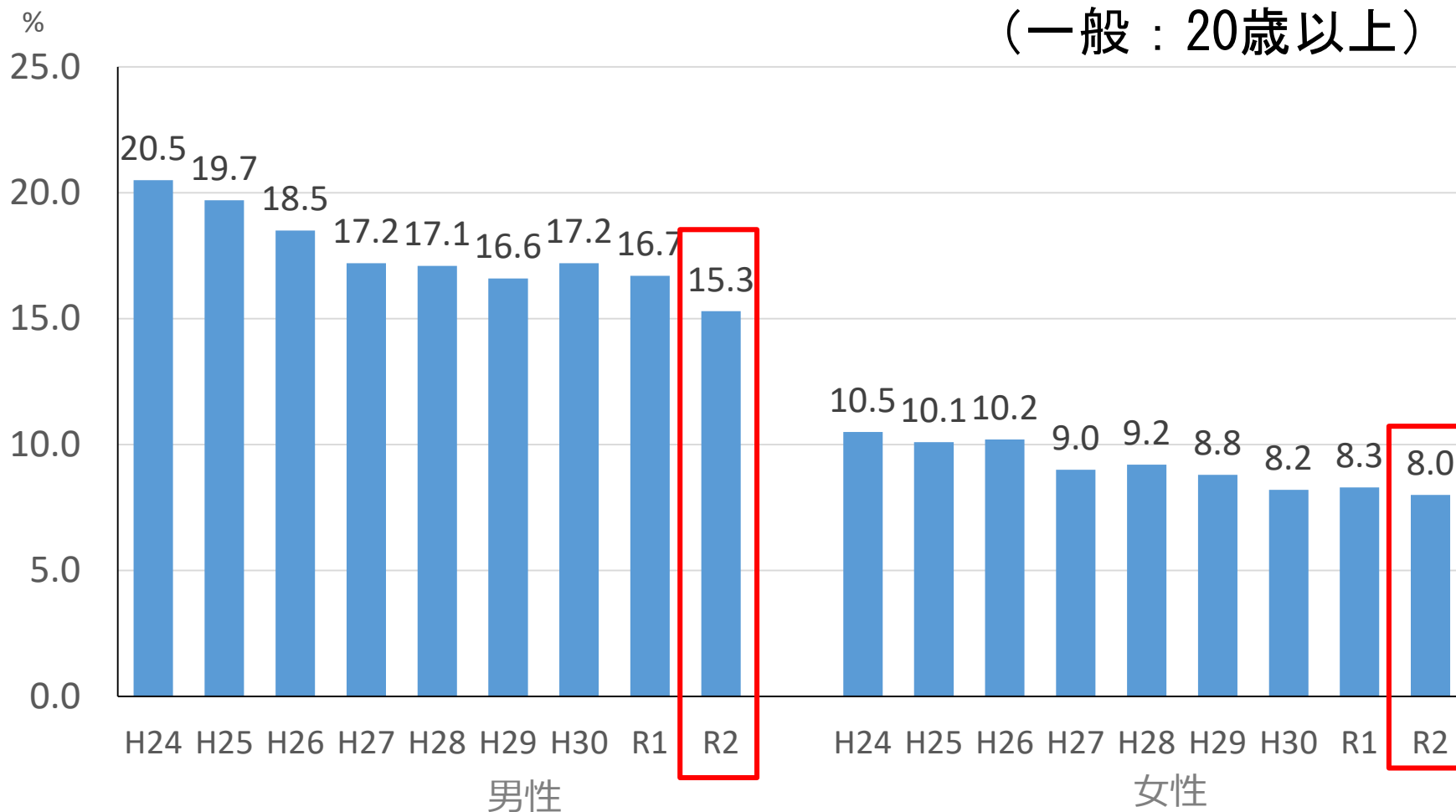
こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

喫煙者の割合の年次推移（一般：20歳以上）



問題飲酒(CAGE)2点以上の割合の年次推移

(一般：20歳以上)



こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

睡眠満足度の年次推移（一般：16歳以上）

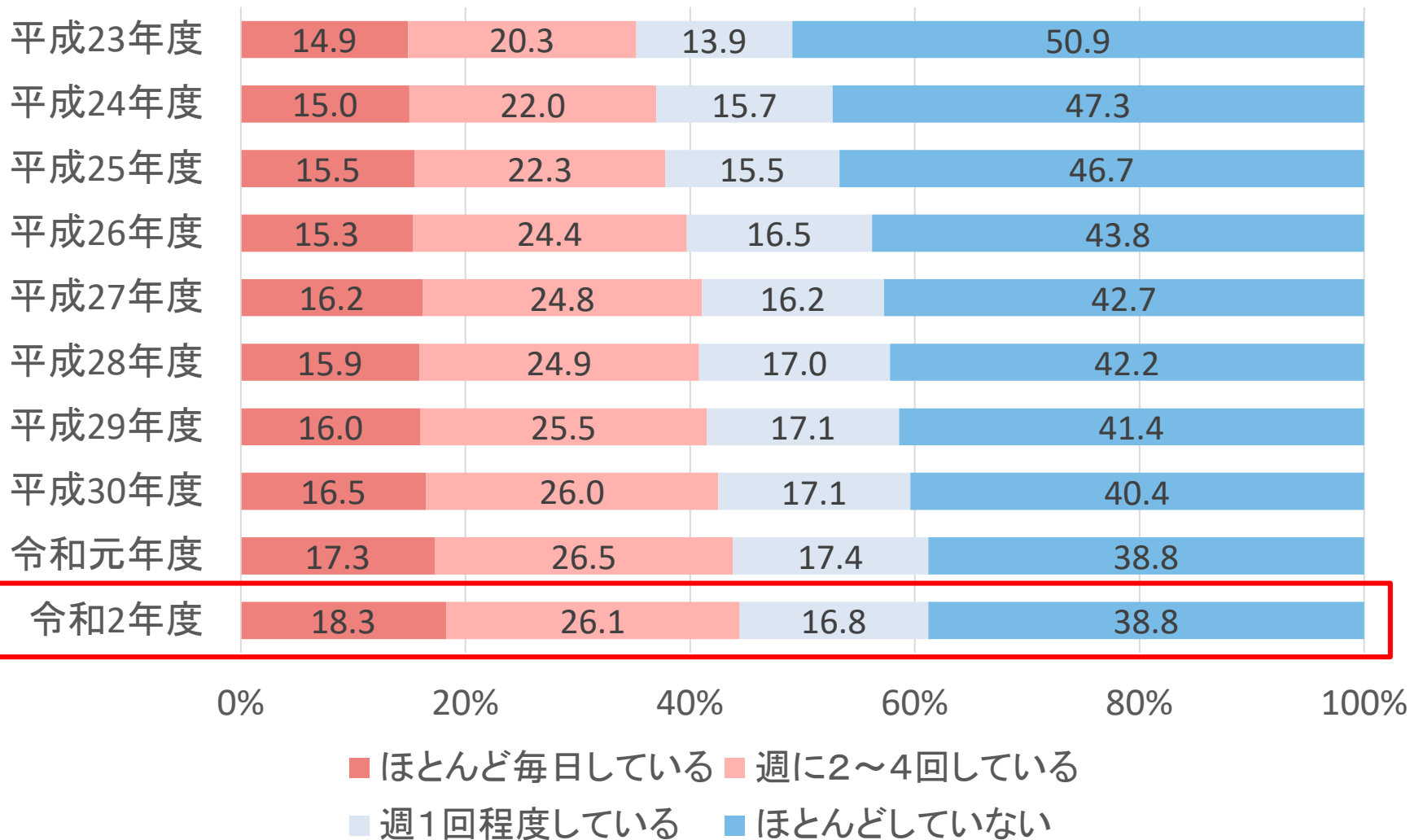


0% 20% 40% 60% 80% 100%

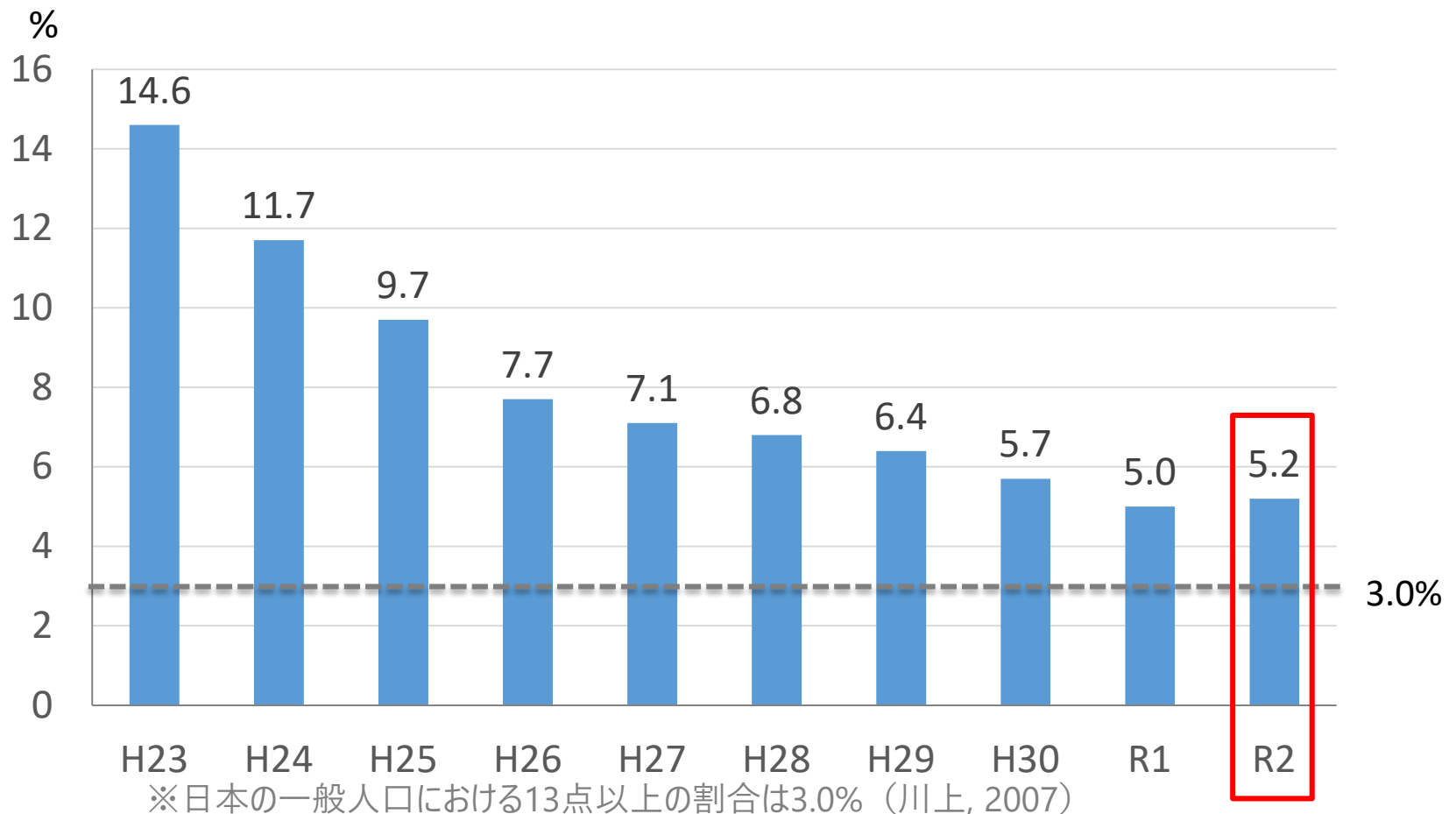
■ 満足している ■ 少し不満 ■ かなり不満 ■ 非常に不満か、全く眠れなかった

こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

普段の運動頻度の年次推移（一般：16歳以上）

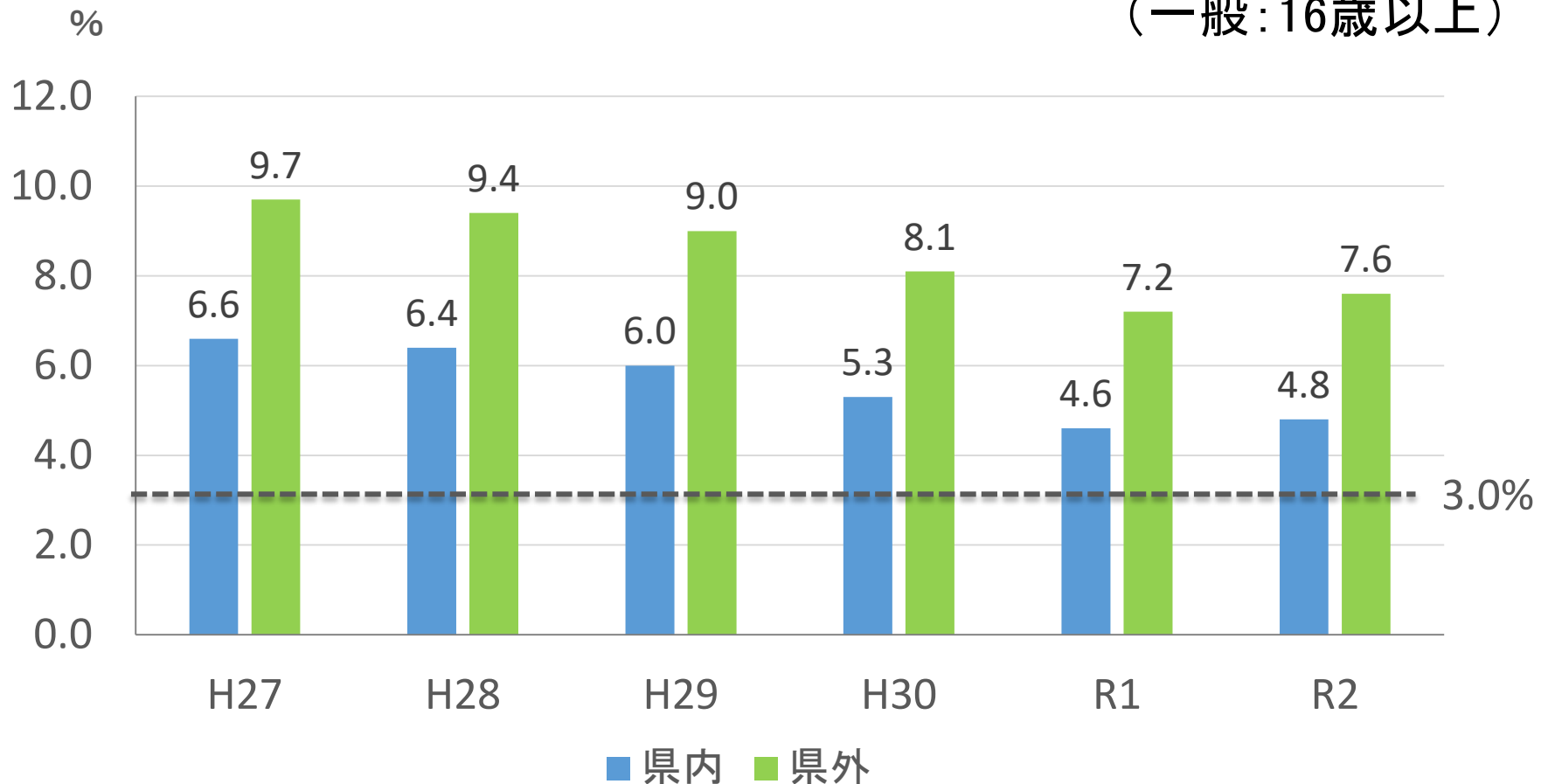


全般的心理健康度(K6)13点以上（一般:16歳以上）



こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

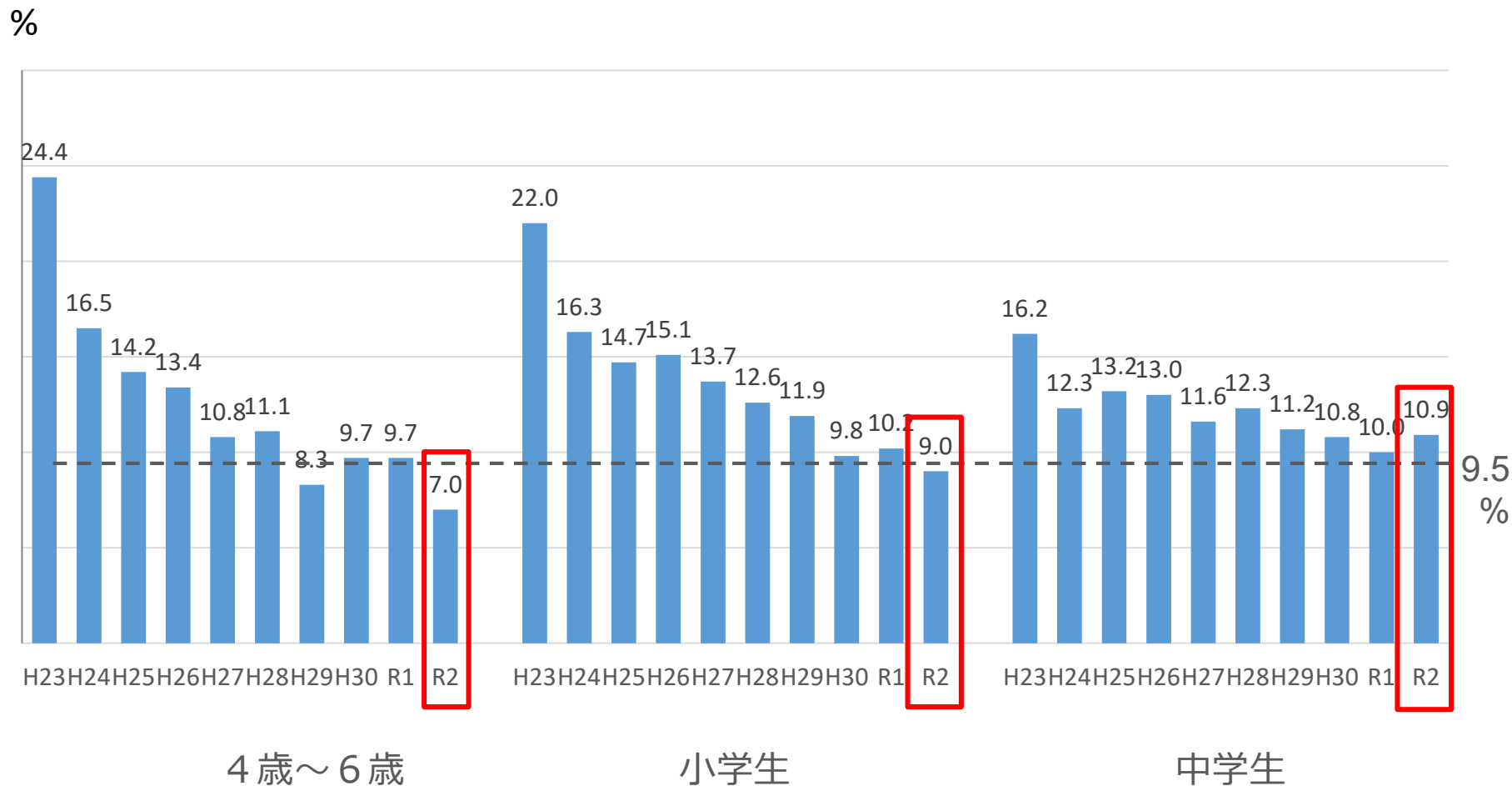
全般的精神健康度(K6) 13点以上の割合 調査時別住所 (一般:16歳以上)



第31回、第35回、第38回、第42回、第45回 福島県「県民健康調査」検討委員会
(H30年6月18日, R1年7月8日, R2年5月25日, R3年7月26日, R4年9月1日)

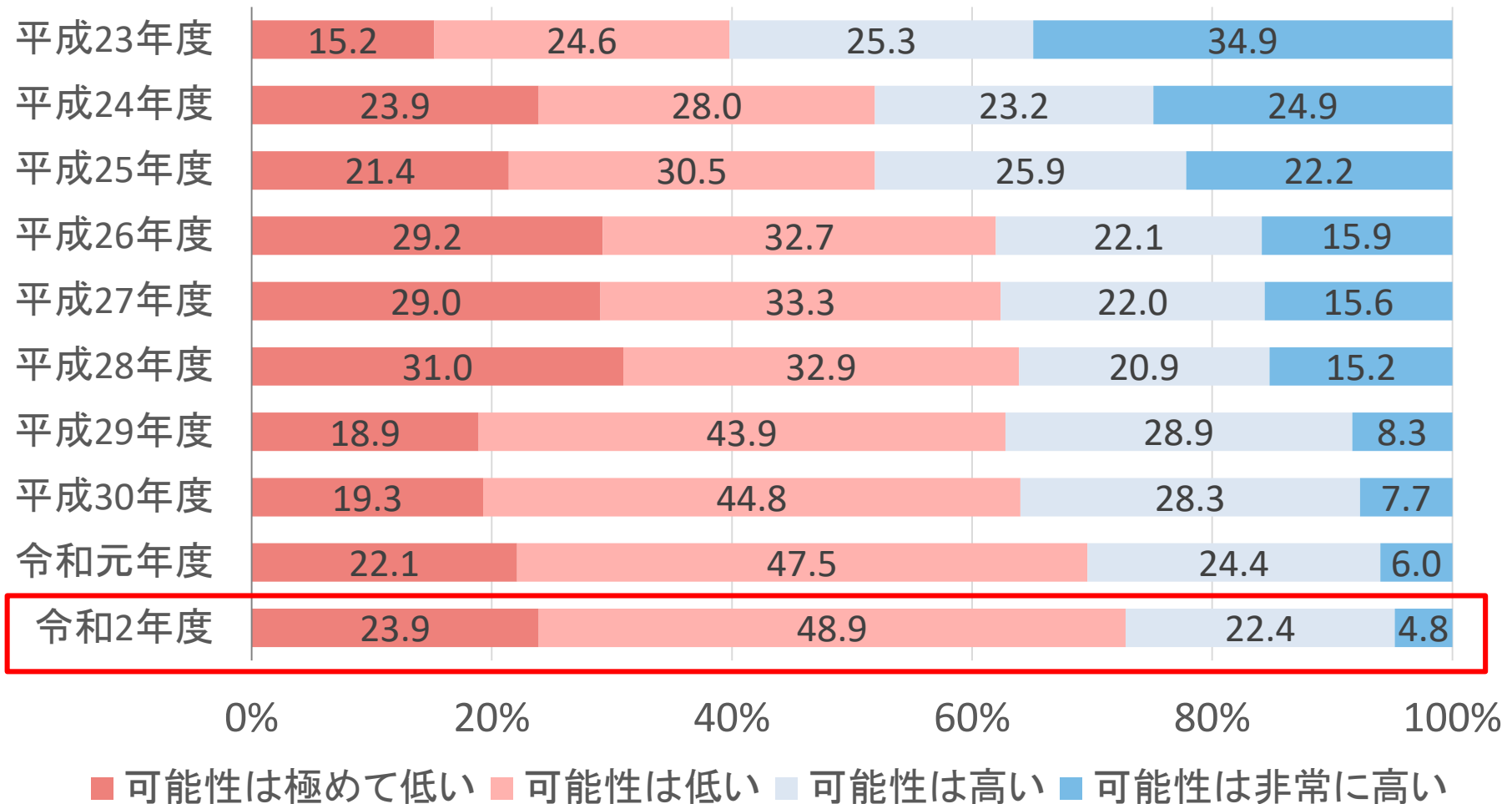
こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

子どもの情緒と行動（SDQ）16点以上の割合の年次推移

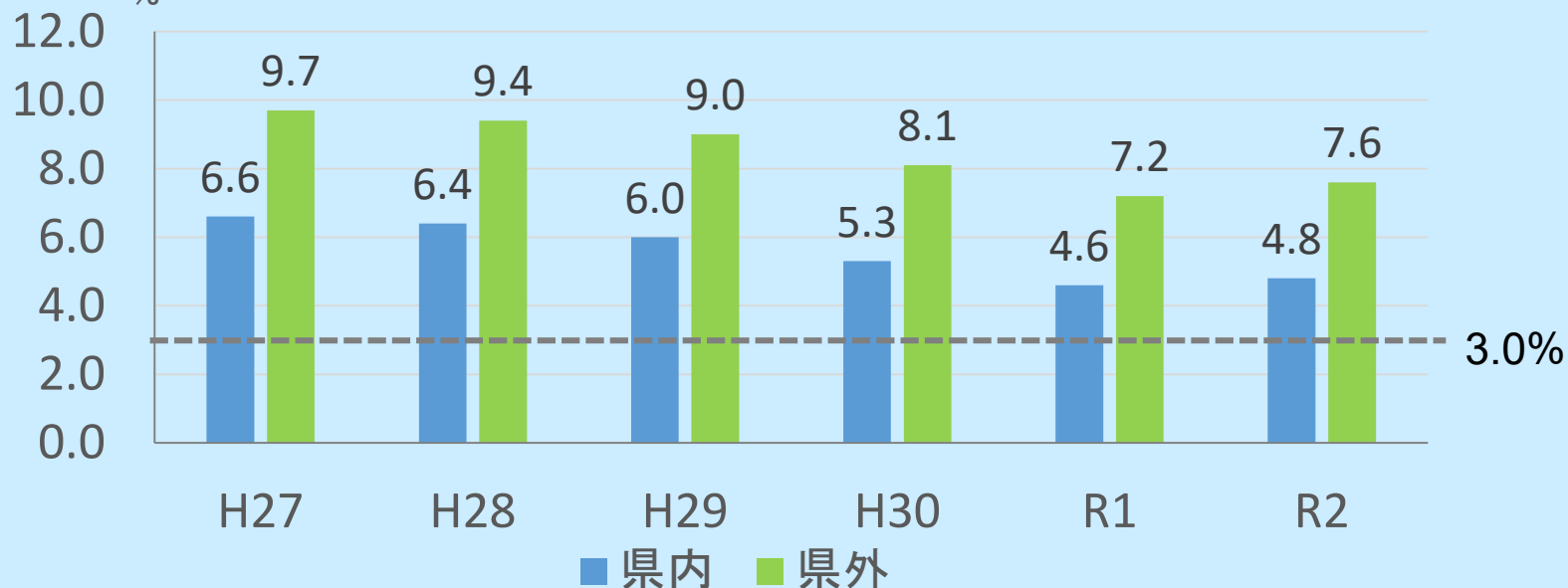


こころの健康度・生活習慣に関する調査【結果】

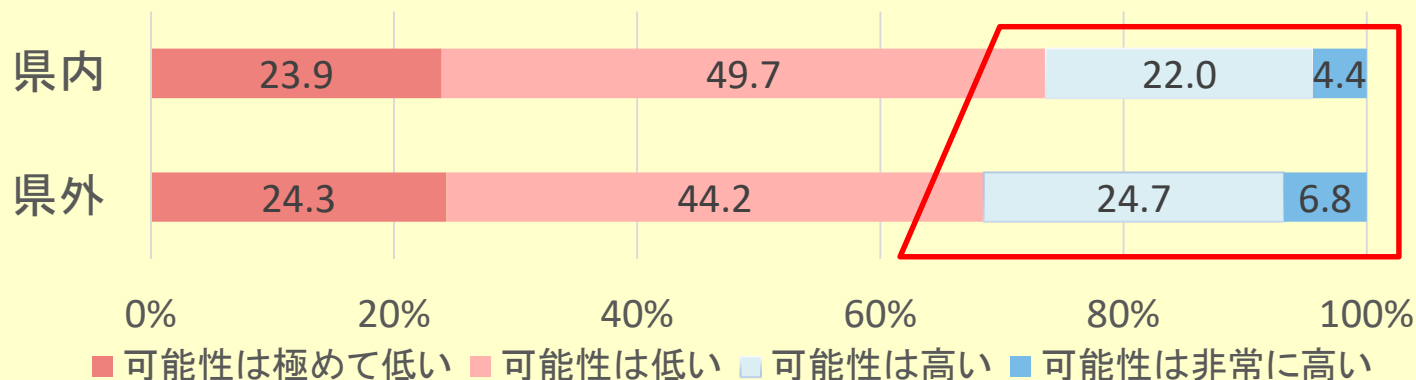
放射線リスク認知（次世代影響）の割合の年次推移 （一般：16歳以上）



県内県外の全般的精神健康度 (K6) 13点以上の割合 調査時住所別



令和2年度 放射線リスク認知 (次世代影響) の割合 調査時住所別



こころの健康度・生活習慣に関する調査【支援】

ハイリスク・アプローチ



高いリスクを持つ人を対象とする取り組み

ポピュレーション・アプローチ



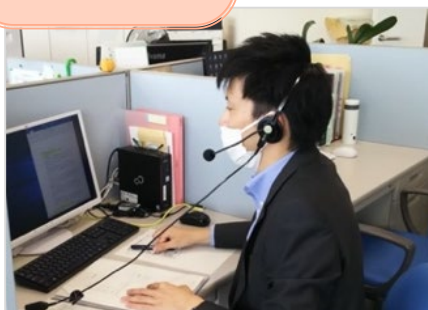
リスクの改善に向けた **集団への働きかけ**

パンフレット



- 健康に関する情報
- 医療機関、相談窓口の紹介

電話支援



- 心身の状態の確認
- ニーズの把握
- 専門的助言

知見の還元



健康イベントへの出展

- 地域住民との対話
- 情報発信

市町村訪問

- 13市町村連絡会での報告
- 調査結果に基づく助言
(保健師、保健福祉担当職員)

シンポジウムの開催

- 支援に有効な情報提供
(専門職、教員、学生等)



啓発活動

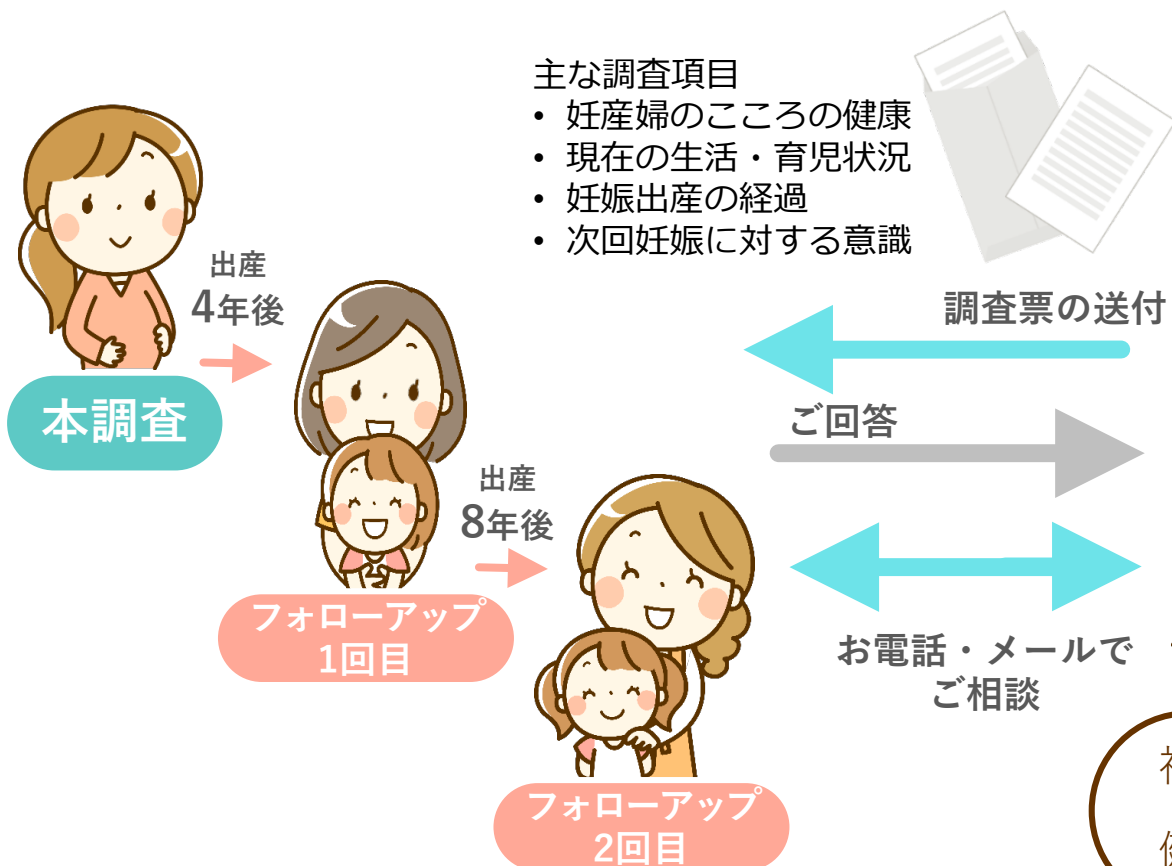
妊産婦に関する調査【概要】

本調査：対象者数12,000～16,000人

- ・平成23～令和2年度に福島県で妊娠・出産をした方に実施

フォローアップ調査：対象者数5,200～7,300人

- ・平成23～26年度の調査に回答いただいた方に実施



助産師・保健師・
公認心理師が不安
や悩みに関する
相談を受付

福島県立医科大学
放射線医学県民
健康管理センター

妊産婦に関する調査【結果】

第44回 福島県「県民健康調査」検討委員会

	早産率		低出生体重児率		先天奇形・ 先天異常発生率	
	本調査	全国調査 *	本調査	全国調査 *	本調査	一般的な 水準
平成23年度	4.6	5.7	8.6	9.6	2.85	3~5**
平成24年度	5.6	5.7	9.2	9.6	2.39	
平成25年度	5.2	5.8	9.6	9.6	2.35	
平成26年度	5.3	5.7	9.8	9.5	2.30	
平成27年度	5.6	5.6	9.4	9.5	2.24	
平成28年度	5.3	5.6	9.2	9.4	2.55	
平成29年度	5.3	5.7	9.2	9.4	2.38	
平成30年度	5.2	5.6	9.0	9.4	2.19	
令和元年度	5.1	5.6	9.1	9.4	2.71	
令和2年度	4.4	5.5	8.1	9.2	2.21	

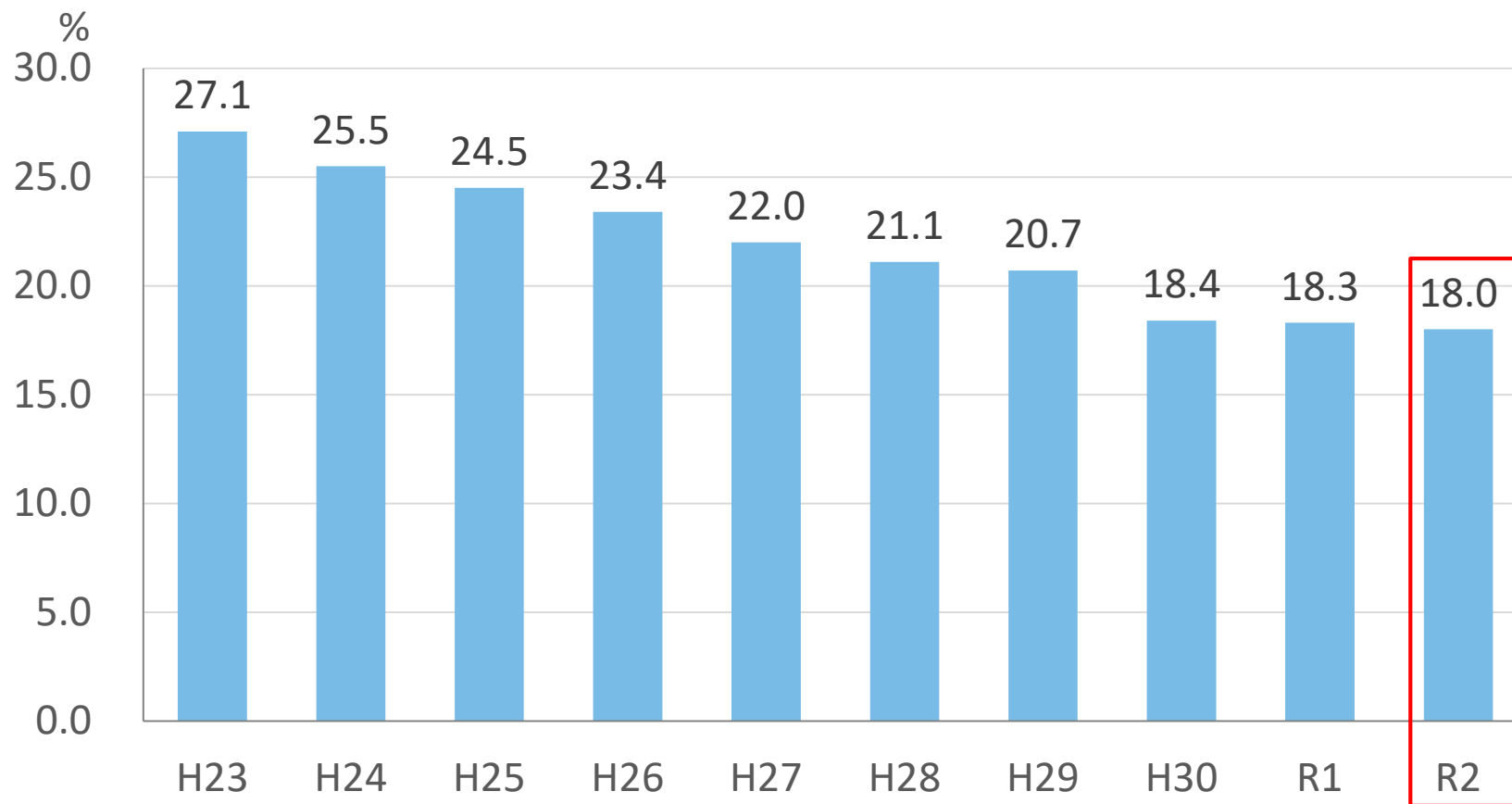
(%)

* 全国調査：人口動態統計における割合

** 産婦人科診療ガイドライン 産科編2020より

妊産婦に関する調査【結果】

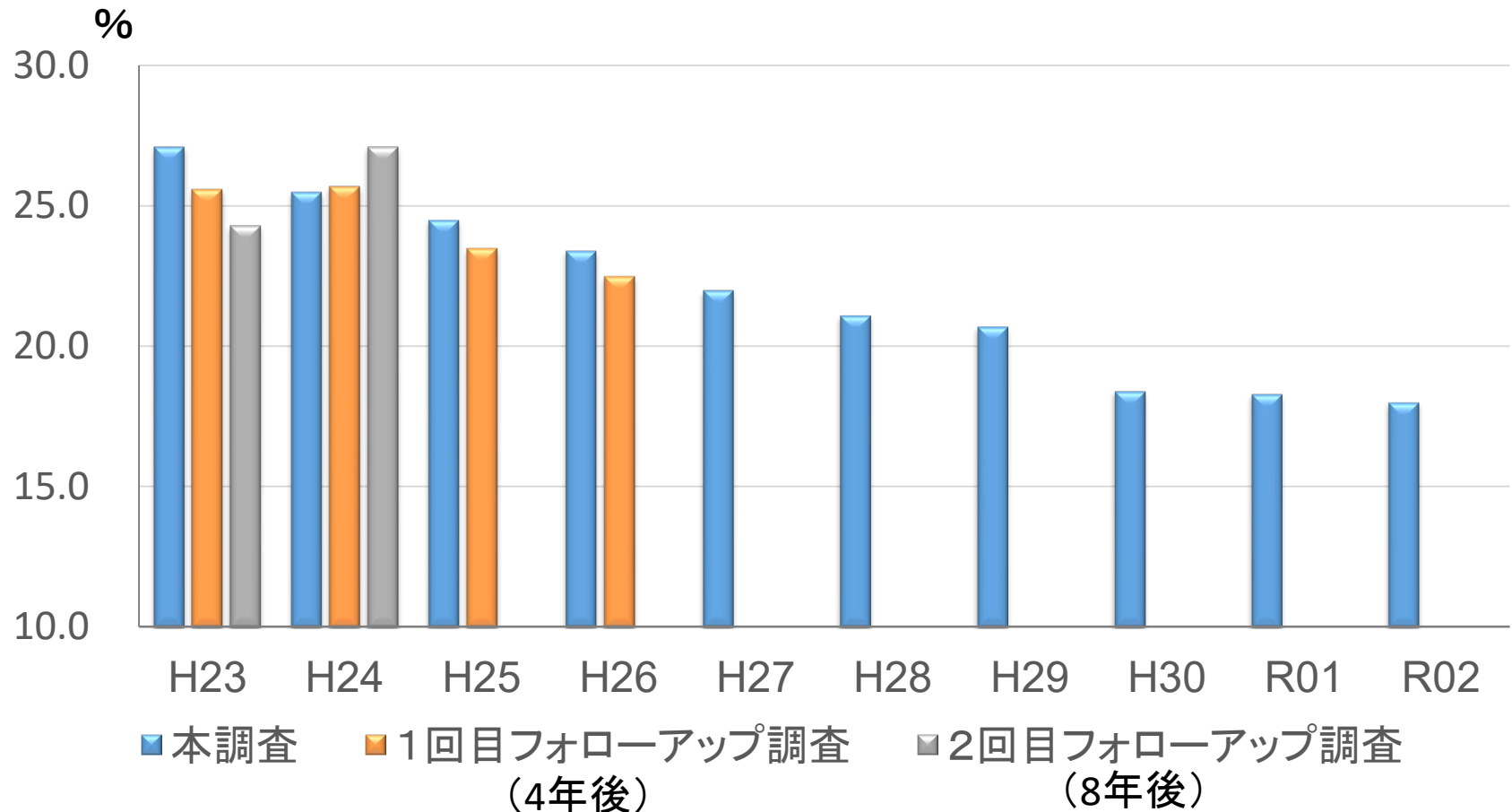
うつ傾向ありと判定された母親の割合の推移



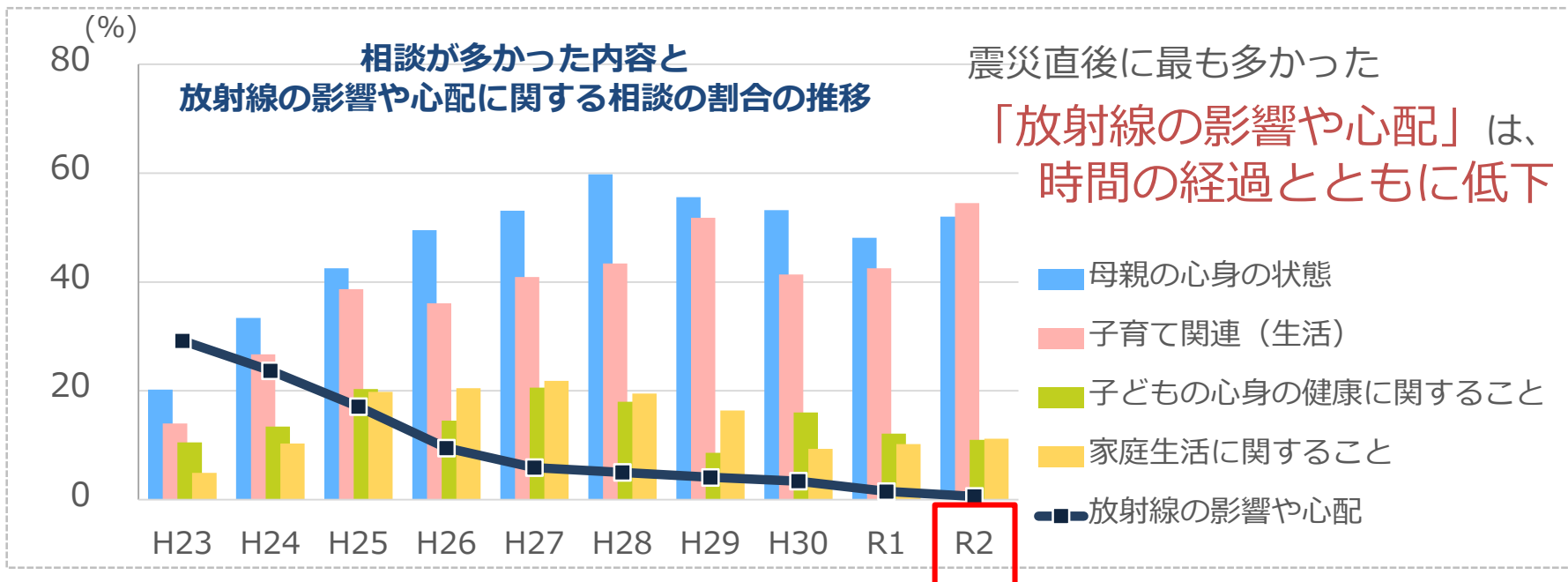
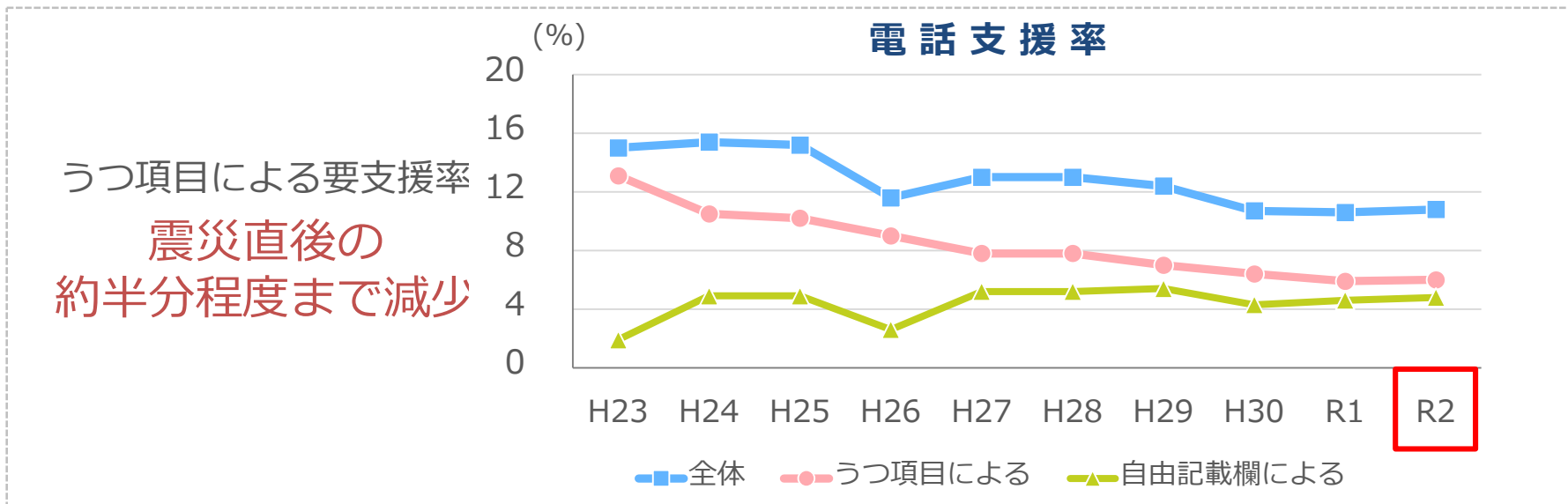
本調査の結果、年々うつ傾向が改善している。令和2年度本調査の「うつ傾向あり」の割合は、全国の産後うつ病疑いの割合と同等になっている。

妊産婦に関する調査【結果】

うつ傾向ありと判定された母親の割合の推移

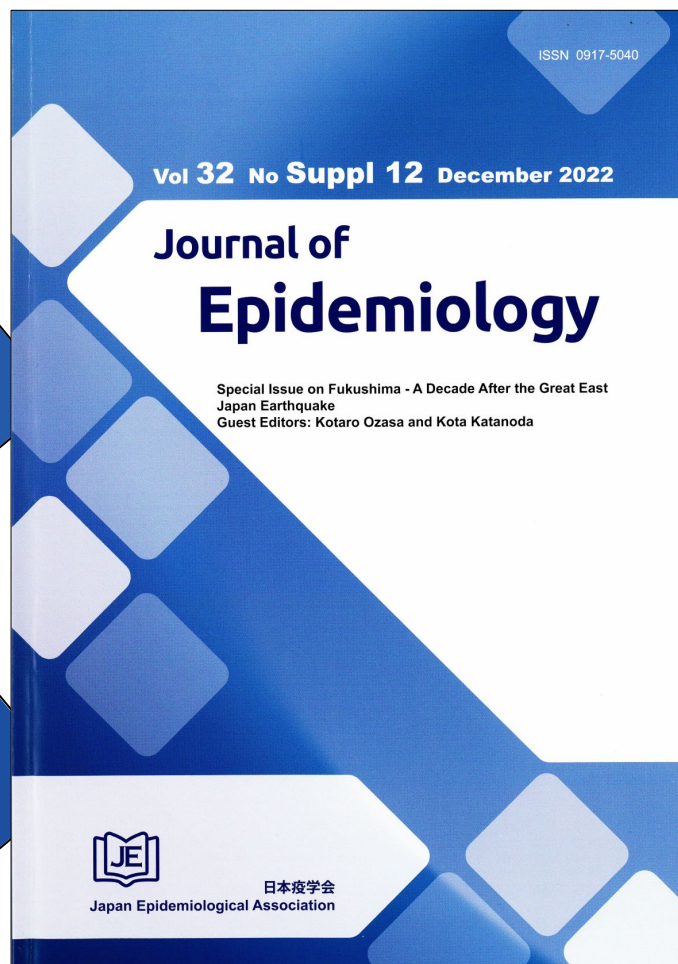


本調査の結果、年々うつ傾向が改善している。令和2年度本調査の「うつ傾向あり」の割合は、全国の産後うつ病疑いの割合と同等になっている。



県民健康調査の成果の情報発信

- Special Issue on Fukushima –
A Decade After the Great East Japan Earthquake
Guest Editors: Kotaro Ozasa and Kota Katanoda
J-STAGE: [Volume 32, Supplement 12, 2022](#)



2023年 福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム

ともに考える福島の健康・暮らし・未来



県民健康調査



あなたの健康、見守ります。



放射線医学県民健康管理センター

- このスライドは、非営利かつ個人的な目的に限り閲覧することができます。

The following presentation slides are shared with symposium registrants exclusively for personal, non-commercial, educational purposes.

- このスライドの著作権は、講演の発表者本人に帰属します(図表等の引用箇所は除く)。如何なる国・地域においても、また紙媒体やインターネット・電子データなど形態に関わらず、スライドの全部または一部を無断で複製、転載、配布、送信、放送、貸与、翻訳、販売、変造、二次的著作物を作成すること等は、固く禁止します。

Copyright of these slides belongs to the presenter and/or the Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University (except figures, tables, etc., cited from other sources). Authorized recipients should refrain from reproducing, reprinting, distributing, transmitting, broadcasting, loaning, translating, selling, modifying, or creating derivatives of any slides, in any physical or electronic medium anywhere in the world.

2023年 福島県立医科大学『県民健康調査』国際シンポジウム
公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
国際シンポジウム事務局(広報・国際連携室)

✉ kenkani@fmu.ac.jp Tel: 024-581-5454(平日9～17時)

2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey

Secretariat of International Symposium

Office of Public Communications and International Cooperation, Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University

✉ kenkani@fmu.ac.jp, TEL: +81-24-581-5454 (Weekday, 9a.m. - 5 p.m. JST)